

文字ヲ描改シタル者ニ革命七年三月二通ヲ造ラサルニ因
 リ法律上證據ノ効力ナキ私印ノ證書ヲ偽造シタル者ハ千
 四百七十九月廿七日公正ノ證書ヲ偽造シ偽造者ノ無智若クハ失
 錯ヲ因リ法律上之ヲ完全ナラシムルニ必要ナリトスル
 正式ヲ關キタル者四月八日五月十一日附判決年モ亦詐偽ノ罪アリト
 判決セリ

余輩思フニ右二箇ノ説ハ何レモ眞理ニ背馳スルモノ、
 如シ即チ往昔ノ法學者ハ害ノ生シ得ヘキヲ必要トスル
 ニ過キサルトノ原則ニ反スルモノナリ何トナレハ證書
 無効ナリト雖モ必スシモ之ヲ使用スルヲ得サルモノニ
 非ス其無効タルコトヲ發見スルマテハ勿論亦之ヲ發見
 シタル後ト雖モ之ヲ使用スルヲ得ルコトアリ而シテ未

文書偽造ノ一般ノ性質

タ之ヲ使用セサル以前ニ此條件ヲ具備スルヲ得レハナ
 リ又大審院ハ他ノ誤謬ニ陷レルモノナリ何トナレハ證
 書固ヨリ無効ニシテ其無効ナルカ爲メ人ヲ害スルコト
 能ハサルトキハ既ニ主タル元素ヲ闕クモノナレハナリ
 凡ソ證書中固ヨリ全ク無効ナルモノト之ヲ造リタルト
 キハ有効ナリシモ法律ニ定メタル條件ヲ履行セサルニ
 因リ無効タルモノトナ區別セサルヘカラス第一ノ場合
 ニ於テハ害ヲ生シ得ヘカラサルノ推測アルヲ以テ決テ
 詐偽ノ罪ヲ成サス爲替手形ニ幼者ノ名ヲ偽署シタルト
 キ公證人ノ造リタルニ非サル私ノ證書ニ署名ナキトキ
 ノ類是レナリ又證書ヲ造リタル後ノ法式ヲ闕キタルカ
 爲メ其無効ナルトキハ其無効タル犯人ノ所爲ニ因ルト

其意外ノ事ニ因ルトナ區別セサルヘカラス第一ノ場合
 ニ於テハ犯人自ラ其企圖ヲ抛棄シタリトノ推測アリ唯
 犯罪ノ意アリテ之ヲ施行セス自ラ止ミタルノ試犯タル
 ニ過キス此レ大審院ノ認メタル所ナリ千八百七十八年八月十四日附判決
 之ニ反シ犯人意外ノ狀況ニ因リ證書無効ト爲リシトキ
 ハ犯人意外ノ狀況ニ因リ事ヲ遂ケサル試犯トシテ之ヲ
 罰スヘシ此論タルニ箇ノ判決ヲ以テ之ヲ確認セリ千八百七十八年八月十四日及千八百七十七年十一月十四日附判決
 此ニ他ノ一問題アリ正當ナル貸金ヲ負債主ノ意ニ抗シ
 テ拂ハシムル爲メノ詐偽例ヘハ權利者正當ノ貸金ヲ返
 濟セシムルヲ得サルニ因リ其負債主ノ財産ヲ委託セラ
 レタル者ノ家ニ到リ偽造ノ證書又ハ偽造ノ委任狀ヲ以

テ其義務ヲ辨濟セシメタルトキハ詐僞ノ罪アル乎ノ點
 是レナリ大審院ニ於テハ革命八年十一月十三日ニ之ヲ
 罰スヘカラスト判決シ後チ千八百九年八月三日ニ之ヲ
 罰スヘシト判決セリ「カルノ」氏及ヒ「ブールギーヨ」氏
 ハ一ノ區別ヲ設ケ負債主ニ對シテ之ヲ使用シタルトキ
 ハ罪ナキモ他人ニ對シテ之ヲ使用シタルトキハ罪アリ
 トセリ然レトモ此區別タル更ニ理ナキカ如シ何トナレ
 ハ負債主ニ對シテ之ヲ使用スルト他人ニ對シテ之ヲ使
 用スルトナ問ハス其目的トスル者ハ一ニ負債主ニ在レ
 バナリ本件ノ場合ニ於テハ權利者不良ナル手段ヲ用ヒ
 負債主ノ意ニ反シテ義務ヲ辨濟セシメタルモノナレハ
 實ニ有形上實ヲ變シタルノミナラス亦詭欺ノ意アルモ

ノナリ然レトモ詭欺ヲ以テ詐僞ノ罪ヲ構造スルヲ得大
 必スシモ害ヲ加フルノ意アリ且害ノ生シ得ヘキコトヲ
 要ス然ルニ本件ノ場合ニ於テハ有形上實ヲ變シタルコ
 ト、不良ナル意思トヲ具フルト雖モ未ダ害ヲ加フルノ
 意ナク又害ノ生シ得ヘキモノニ非ス故ニ詐僞ノ罪アリ
 トスルヲ得サルナリ然レトモ此解タル濫リニ之ヲ擴張
 スヘカラスト債主權アルノミニテハ未ダ其罪ヲ免カル、
 ニ足ラス若シ偽造者其權利ノ額ヲ超過シタルトキ其請
 求ノ期限未ダ來ラサルトキ負債主或ル抵拒法ヲ申立テ
 其辨濟ヲ爲サ、ルトキ其事件訴訟ニ係ルトキハ詐僞ノ
 罪アリトス是レ此場合ニ於テハ負債主ノ利益權利ヲ害
 スルモノナレハナリ

今此項說ヲ約言セシニ害ノ生シ得ヘキコトハ詐偽罪ニ
 關クヘカラサル條件ナリ若シ此模様ナキトキハ唯偽言
 ニ過キス偽言ハ德義ニ背クノ所爲ナリト雖モ其社會ニ
 危害ヲ加ヘサルカ故ニ詐偽罪ノ性質ヲ有セス然レトモ
 害ヲ加フルノ目的ヲ以テ偽造シタル文書ノ犯人ノ豫見
 シ得サル狀況即チ法式ヲ闕キタルコトニ因リ其効力ヲ
 失ヒタルトキハ格別ナリトス然レトモ此レ一ノ例外ニ
 非ス文書無効ナルトキハ詐偽ナク又犯人意外ノ事ニ因
 リ其效果ヲ停止セラレタルトキハ試犯トシテ罰スヘキ
 コト蓋シ自然ノ理ナリ
 以下逐次縷說シ來リタル所ノ三則ヲ總括セハ曰ク詐偽
 罪ハ實ヲ變スルコト害ヲ加フルノ意思害ノ生シ得ヘキ

コトノ三條件ヲ具備スルニ非サレハ成立セス此三條件
 タル何レモ犯罪組成ニ至緊至要ノ元素ナリ然レトモ其
 性質ニ至テハ亦各相異ナレリ管ニ害ヲ變スルノミニテ
 ハ未ダ充分ナラス法律ニ特定シタル場合ニ當該セサル
 ヘカラス又管ニ不良ナル意ヲ以テ詐偽ヲ爲スノミニテ
 ハ未ダ充分ナラス之ニ因テ他人ヲ害スルノ意アルヲ要
 ス又管ニ詭欺ノ念ニ因リ實ヲ變スルノミニテハ未ダ充
 分ナラス或ル害ヲ生シ得ヘキモノダラサルヘカラサル
 ナリ

著者曰ク原文頗ル廣浩ナリト雖モ爰ニ唯其大要ヲ
 譯述スルノニ故ニ其本旨ノ存スル所ヲ撮寫シテ敢
 テ字句ヲ顧ミズ大審院判決ノ如キハ殊ニ之ヲ略シ

或ハ其意ヲ約シ或ハ唯其日附ノミチ示セタリ
右「フースタン、エリー」氏ノ所論ハ專ラ佛法ニ基由スルモ
ノナレハ之ヲ取テ直チニ吾カ刑法ノ解トスルヲ得ス故
ニ今吾カ刑法ニ就テ簡ニ文書偽造罪ノ一般ノ性質ヲ説
カン

第一 實ヲ變スルコト 實ヲ變スルコトハ文書偽造及
ヒ變造ノ罪ニ闕クヘカラサル一條件ナリ然レトモ未ダ
悉ク之ヲ以テ偽造變造ノ罪ヲ構造スルモノト爲スヲ得
ス第一法律ニ豫見シタル場合ニ非サレハ之ヲ罰セス例
ヘハ告訴狀告發狀等ニ偽リノ事件ヲ記載シタルトキ想
像ニ係ル人名ヲ記載シタル文書ヲ造リタルトキノ類是
レナリ然レトモ他人ノ告訴狀告發狀ヲ偽造變造シ又ハ

他人ノ真正ナル證書中ノ氏名ヲ播改シ之ニ想像ニ係ル
氏名ヲ記入シタルトキノ類ハ偽造變造ノ罪アリトス第
二變裝ト偽造變造トハ宜ク區別ヲ設ケサルヘカラス例
ヘハ虚偽ノ負債ヲ増加センカ爲メ假リノ債主負債主承
諾ノ上虚偽ノ貸借證書ヲ造リタルトキノ如キハ變裝ニ
シテ偽造ニ非ス故ニ第三百八十八條ニ依リ罰スルコト
アルヘキモ之ヲ偽造ノ罪アリトシテ罰スルヲ得ス然レ
トモ官ノ文書ニ付テハ實際變裝ナル者アルコトナシ何
トナレハ官ノ文書ハ官吏之ヲ造ルト雖モ官吏ノ擅ニ
得ヘキモノニ非ス無形人タル官ノモノニシテ官吏或ハ
承諾上文書ニ不實ノ事ヲ記載スルコトアルヘキモ官ハ
決テ此ノ如キコトヲ爲スモノニ非サレハナリ世間或ハ

文書偽造ノ一般ノ性質

官吏ハ官ノ代人ナレハ官吏ノ所爲ハ即チ官ノ所爲ナリト臆測スル者アラント雖モ是レ未ダ此場合ニ於テハ官吏其權限外ノ事ヲ爲シタルモノナルコトヲ達見スル能ハサルコ坐スルノミ又證書ヲ他人ニ與フルニ方リ嘗テ雙方協議シタルヨリ以外ノ事ヲ記入シ或ハ之ヲ變換シタルトキハ犯人其受取人ヲシテ之ヲ調査スルヲ得セシメサルノ手段ヲ施シタルトキハ格別否ラサル場合ニ於テハ決テ偽造ノ罪アラサルナリ然レトモ印ヲ押用シタル白紙ヲ濫用シ若クハ社員會社名義ノ證書ヲ偽造シタルトキノ類ハ吾カ刑法ニ於テハ之ヲ偽造若クハ變造ノ罪トシテ罰スヘキナリ

第二 惡意 此第二ノ條件ニ付テハ余「フォー」スタン、エリ

「氏ノ説ニ從フヲ得ス氏ハ惡意トハ第三ノ人ヲ害スルノ意ヲイフト解スト雖モ恐クハ狹隘ニ失スルモノナラシカ故ニ余ハ之ヲ解シテ不正ノ用ニ供スルノ意ト爲サント欲ス凡ソ罪ヲ犯スハ必スシモ人ヲ害スルノ意アルニ非ス往々己レヲ利セントスルニ出ツルモノナリ此偽造變造ノ罪タル全ク其害ナキトキハ之ヲ罰セスト雖モ而モ人ニ害ヲ加フルノ意アルヲ要セス唯不正ノ用ニ供セントスルノ意アルヲ以テ業ニ充分ナリトス氏モ亦慾情ニ原因スルモノニ限ラス他ノ原因即チ復讐ノ念公務ヲ免カレント欲スルノ念ニ基クモノモ亦之ヲ罰スヘシト説ケルヲ見レハ自ラ其説ノ狹隘ニ失セルヲ認メタルモノ、如シ然レトモ第三ノ人ヲ害スルノ意ト不正

ノ用ニ供スルノ意トハ其事相異ナルヲ以テ決テ之ヲ混同スヘカラサルナリ例ヘハ受取證ノ金額ヲ改メ百圓ヲ貳百圓ト變造シ其義務ヲ免カレンカ爲メ之ヲ使用シタルトキハ不正ノ用ニ供スルノ意アリトイフヘキモ若シ犯人權利者ヲ害スルノ意ナキトキハ第三ノ人ヲ害スルノ意アリトイフヲ得サルノ類是レナリ

第三 損害 凡ソ損害ニ數種アリ公ノ損害私ノ損害又生命ニ關スルモノ財産ニ關スルモノ名譽ニ關スルモノ等はレナリ然レトモ此ニ所謂損害トハ直接間接ヲ問ハズ公ノ損害ヲ指スモノト解セサルヘカラス何トナレハ文書偽造若クハ變造ノ罪ハ公益ニ關スル罪ニシテ私益ニ關スル罪ニ非サレハナリ故ニ文書ヲ偽造シ若クハ之

ヲ變造シタリト雖モ毫モ公益ヲ害シ若クハ害シ得ヘカラサルトキ即チ偽造變造シタル證書ノ無効ナルトキハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ無効云々ノ點ニ付テハ「フォース」ダシ、エリー」氏説キ得テ最モ允當ナリ故ニ茲ニ之ヲ贅セズ
又毀棄ノ罪ニハ第一ノ條件ヲ必要トセサルハ勿論第二ノ條件モ亦之ヲ必要トセス唯其詔書若クハ官私ノ文書タルコトヲ知り故ラニ之ヲ毀棄シタルヲ以テ充分ナリトス然レトモ第三ノ條件ハ毀棄ノ罪ニモ亦必要闕クヘカラサルモノナリ

第二百二條

詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處

ス
其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解
- 四 詔書ヲ偽造變造スルノ罪モ亦三箇ノ條件ヲ必要ト爲ス乎

〔一〕〇本條ハ詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ若クハ之ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ詔書ヲ偽造變造シタル者ノ罪ヲ定ム
詔書トハ勅宣ノ文書ヲイフ凡ソ文書中其貴重ニシテ且其利害ノ關係洪大ナル未タ詔書ヨリ甚シキモノアラス

然ルニ之ヲ偽造シ又ハ其文言ヲ加へ若クハ之ヲ削リ又ハ其字數ヲ増減セスト雖モ措置ヲ顛倒シ字句ヲ改竄シ若クハ字畫ヲ描改シ意義ヲ變轉シタル者ハ一般ノ信用ヲ害スル殊ニ大ナリトス故ニ御璽國璽ヲ偽造シタル者ト同ク之ヲ無期徒刑ニ處スヘシト定メタリ

本項ニハ單ニ詔書ヲ偽造シ云々トアリテ之ヲ行使シタルト否トチ問ハス此レ曩ニ官印偽造ノ罪ニ付キ論シタルカ如ク恐クハ其當ヲ失スルモノナラン何トナレハ詔書ヲ偽造變造シテ之ヲ行使シタルヤ一般ノ信用ヲ害スヘシト雖モ戲レニ之ヲ偽造變造シテ固ヨリ行使スルノ意ナキ者ハ其信用ヲ害スルコトナシ然ルニ仍ホ之ヲ無期徒刑ニ處スルハ全ク刑罰ノ主旨ニ反スヘケレハナリ

又詔書ヲ偽造變造シテ之ヲ行使シタル者ト其偽造變造
 既ニ成テ未ダ行使セサル者トハ其罪情自カラ輕重ノ差
 違アリ然ルニ彼此同一ノ刑ヲ以テ之ヲ處スルハ是レ亦
 刑法ノ原理ニ悖ルモノナリ故ニ若シ立法官ニ於テ詔書
 ナ偽造變造シ未ダ行使セサル者ヲ罰スルニ無期徒刑ヲ
 以テセサルヘカラストセハ未行既行ヲ問ハス偽造變造
 者ヲ無期徒刑ニ處センヨリハ寧ロ詔書ヲ偽造變造シテ
 行使シタル者ヲ死刑ニ處シ未ダ之ヲ行使セサル者ヲ無
 期徒刑ニ處シ偽造變造ニ着手シ未ダ成ラサル者ヲ有期
 徒刑ニ處シ固ヨリ行使スルノ意ナキ者ヲ不問ニ付スル
 ノ整然タルニ如カサルナリ故ニ余ハ立法官ニ向テ右ノ
 趣意ニ基キ本項ノ改正アラシクコトヲ切望ス

〔三〕〇第二項 本項ハ詔書ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ定ム
 詔書ヲ毀棄スルトハ詔書ヲ破裂シ又ハ之ヲ切斷シ滅盡
 スルノ類チイフ此等ノ所爲ハ皇威朝憲ヲ畏憚セサルノ
 極點ナレハ本項之ヲ罰スルニ無期徒刑ヲ以テセリ或ハ
 日ハシ詔書ヲ偽造變造スルト之ヲ毀棄スルトハ因テ生
 スル所ノ公害相同シカラス然ルニ之ヲ同刑ニ處スルハ
 少ク刑罰ノ本旨ニ反スヘシ若シ夫レ公害ニ多少アリト
 雖モ此所爲タル皇威朝憲ヲ畏憚セサルノ極點ナルヲ以
 テ之ヲ嚴罰スヘシトセハ此罪ヲ本節ニ定メスシテ本篇
 第一章ニ定ムル方穩當ナルヘシト此說一理アルカ如シ
 ト雖モ未ダ達セス偽造變造ノ罪ト毀棄ノ罪トハ同性質
 ノモノナレハ毀棄ノ罪ハ一般ノ信用ヲ害スルコト少ク

他ニ理由ノ在ルアリテ之ヲ嚴罰スルモノト爲スモ之ヲ本節ニ定ムル方却テ其順序ヲ得タルモノナリ

〔四〕〇詔書ヲ偽造變造スルノ罪ハ之ヲ行使シタルトキ始メテ成立スルモノニ非サレハ唯實ヲ變スルコトヲ必要ト爲スノミ惡意ト損害トハ敢テ必要ト爲サ、ルカ如シ此レ前ニ余カ資テ本條ノ改正ヲ求ムルノ一理由ト爲シタルモノナリト雖モ其改正ナキ間ハ道理上右二條件ヲ必要ト爲スモノト論セサルヘカラス他ナシ不正ノ用ニ供スルノ意ナキカ又ハ其詔書ノ無効ニシテ損害ヲ生シ得ヘカラサルトキハ之ヲ罰スルノ要アラサレハナリ

第二百三條

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ

輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者及ヒ之ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ官ノ文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

官ノ文書トハ立法行政司法ノ別ナク諸官署ノ文書及ヒ官吏ノ名義ヲ以テスル公文ヲ總括シテイフ此等ノ文書タル公益ニ關シ且最モ世ノ信用ヲ要スルモノナレハ之

ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一般ノ信用ヲ害スル亦寔ニ大ナリトス故ニ之ヲ重罪トシ輕懲役ニ處スヘシト定メタリ

官印偽造及ヒ前條詔書偽造ニ付テハ單ニ偽造若クハ變造シタルノミニテ本罪ヲ形成スト定メタルモ本條以下ニ於テハ單ニ偽造變造シタルノミニテハ未ダ本罪ヲ成サス之ヲ行使シタルトキ始メテ其罪アリトス此ノ如ク偽造變造シテ行使シタルトキ始メテ其罪アリト定メタルハ能ク其理ニ適スルモノナリ是レ官ノ文書ハ之ヲ偽造變造シタルノミニテハ未ダ以テ公害ヲ生シタリトセズ之ヲ行使シタルトキ始メテ一般ノ信用ヲ害スルモノナレハナリ

本項以下ニ所謂行使トハ用立ツルノ義ナリ然レトモ之ヲ行使シテ其目的トスル所ヲ遂ケタルト否トチ問ハス未ダ其目的ヲ遂ケスト雖モ之ヲ遂クルノ目的ヲ以テ文書ヲ用立ツルノ所爲ヲ行ヒタルトキハ既ニ之ヲ行使シタリトイフヘキナリ

〔三〕○第二項 本項ハ官ノ文書ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ定ム

官ノ文書ヲ毀棄スルトハ之ヲ破裂損壞スルノ類チイフ官ノ文書ハ其利益ノ影響スル所大ナリ故ニ之ヲ毀棄スルトキハ其公益ヲ害スルノミナラス亦此所爲タル公權ヲ重ンセサルノ極ナレハ之ヲ偽造變造シテ行使シタル者ト同刑ニ處スヘシト定メタリ

官文書毀棄ノ罪ハ一般ノ信用ヲ害スルヨリハ寧ロ公權

ヲ蔑如スルモノナリ故ニ之ヲ本節中ニ列スルハ其所ヲ失スルカ如シト雖モ前條ニ於テ開説シタル如ク等ク公益ヲ害スルノ罪ニシテ其事タル相類スルヲ以テ官文書偽造ノ罪ト同節ニ之ヲ定メタルナリ

○佛刑法第四百十七條 總テ其他ノ者或ハ文字又ハ署名ヲ偽造變造シ或ハ契約規則義務及ヒ義務ノ免除ヲ設ケ又ハ此等ノ證書ヲ造リタル後直チニ此等ノ事ヲ書入レ或ハ之ヲ受ケ之ヲ證スルヲ目的トスル證書中ノ約件申立又ハ事件ヲ増加シ變換シ以テ公正ノ文書ヲ偽造シタルトキハ有期徒刑ニ處セラルシ刑七、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇以下、
同第四百十八條 凡ソ本節ニ定メタル場合ニ於テ偽

造ノ文書ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處セラルシ刑七、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇以下、

第二百四條

公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル

文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム
 公債證書トハ新舊公債證書秩祿公債證書金札引換公債
 證書金祿公債證書ノ類ナイツ地券トハ官廳ヨリ地所所
 有ノ證トシテ下付スル券狀ナイツ其他官吏ノ公證シタ
 ル文書トハ地所建物ノ質入書入又ハ賣買讓與地券書替
 等ニ付キ官吏ノ與書證印シタル文書ノ類ナイツ
 官吏ノ公證シタル文書ノ如キハ多クハ私文書ナリト雖
 モ既ニ官吏ノ之ニ公證シタル以上ハ其性質變シテ官ノ
 文書ト爲ル故ニ本條ノ罪ヲ以テ官文書偽造ノ節ニ定メ
 且其刑前條ト同ク輕懲役ナリト是レ其一般ノ信用ヲ
 害スルノ點ニ至テハ彼此輕重アラサレハナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ無記名ノ公債證書ヲ偽造變造シテ行

使シタル者ハ一等ヲ加フヘキコトヲ定ム

無記名ノ公債證書トハ起業公債證書ノ類ノ如ク所有主
 ノ氏名ナキモノナイツ所有主ノ氏名アルモノハ之ヲ賣
 買讓與スルニハ必ス官廳ノ手ヲ經由セサルヘカラス故
 ニ之ヲ偽造變造スルモ之ヲ行使スルコト難ク又其害ノ
 波及スル所大ナラス然ルニ無記名ノ公債證書ハ恰モ通
 用ヲ許シタル紙幣ト同ク賣買交換等ヲ爲スノ容易ナル
 モノナレハ之ヲ行使スルニ易ク之ヲ防クニ難ク且其害
 ノ波及スル所大ナリ故ニ一等ヲ加ヘ重懲役ニ處スヘシ
 ト定メタリ

○佛刑法第三百三十九條 第百九十四條

同第四百十八條 前條ニ全
 文ヲ掲ク

第二百五五條

官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行
使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

○本條ハ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シテ行使シ又ハ
之ヲ毀棄シタル者ノ罪ヲ定ム

官ノ文書ヲ偽造變造シ若クハ之ヲ毀棄シタル者ハ其官
吏ナルト常人タルトニ論ナク之ヲ同刑ニ處スルト雖モ
官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造變造シ又ハ之ヲ毀棄シタ
ルトキハ當ニ其職務ヲ瀆スノミナラス亦之ヲ犯スニ易
ク之ヲ防クニ難キヲ以テ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スヘシト
定メタリ

本條第一項ニハ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シ

タル者トアレトモ若シ偽造變造ノミニテ既ニ本罪ヲ成
スモノ亦本條ニ依リ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スヘキナリ

○佛刑法第四百四十五條 凡ソ官吏又ハ公務人其職務ヲ

行フニ當リ或ハ偽リノ署名ヲ爲シ或ハ證書文字若
クハ署名ヲ變換シ或ハ想像ノ人ヲ設ケ或ハ簿冊其
他公ケノ文書中ニ其結了後書入レテ爲シ以テ詐偽
ヲ犯シタル者ハ無期徒刑ニ處セラレヘシ〔刑〕七、一五、
六二、三六、一
六四以下

同第四百四十六條 凡ソ官吏又ハ公務人其管掌ニ係ル

證書ヲ記載スルニ當リ詭欺ノ意ヲ以テ契約ヲ爲ス
双方ノ者ノ指定シ若クハ口授シタルヨリ以外ノ契

約ヲ記載シ又ハ偽リノ事件ヲ眞實ナリト證明シ又ハ白狀セサル事ヲ白狀シタリト證明シ以テ其本質又ハ模様ヲ變シタル者ハ無期徒刑ニ處セラレヘシ

〔刑〕七、一五、一六、一八、二二、三六、一六四以下、

同第四百四十八條

第二百三條ニ至文ヲ掲ク

第二百六條

官ノ文書ヲ偽造スルニ因リ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○本條ハ官ノ文書ヲ偽造スルニ因リ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルトキハ官印偽造又ハ盜用ハ官文書偽造ノ一方法ニ過キスト雖モ仍モ數罪俱發ノ例ニ照シ處斷スヘキ旨ヲ定ム

官ノ文書ハ多クハ官印ヲ押用スルニ非サレハ其效ヲ生セス故ニ之ヲ偽造スルニモ亦官ノ印影ヲ寫シ若クハ想像ノ印ヲ押用スルモノナリ官ノ印影ヲ寫シ若クハ想像ノ印ヲ押用シタルトキハ唯官文書偽造ヲ以テ之ヲ論スヘキモ若シ之カ爲メニ官ノ印章ヲ偽造シ若クハ之ヲ盜用シタルトキハ數罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重キニ從テ處斷ス是レ官印偽造又ハ官印盜用ノ罪或ハ官文書偽造ノ罪ヨリモ重キコトアリ而シテ官ノ文書ヲ偽造シタルカ爲メ重キ官印偽造若クハ盜用ノ罪ヲ免カル、ノ理アラサレハナリ

本條ニハ單ニ官ノ文書ヲ偽造スルニ因リ云々トアレト

モ官ノ文書ヲ變造スルニ因リ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者モ亦本條ニ依テ處斷セサルヘカラス例ヘハ挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シ之ヲ證スルカ爲メ官印ヲ偽造シテ之ヲ使用シ若クハ之ヲ盜用シタルトキノ類是レナリ又本條ニハ單ニ官印ヲ偽造シトアルモ偽印ヲ使用シタルトキ亦本條ニ依テ處斷セサルヘカラス此二點タル明々白々固ヨリ一點ノ疑ヲ容レスト雖モ刑法ハ事ノ明了ナランコトヲ要スレハ宜ク本條ヲ改メ官ノ文書ヲ偽造變造スルニ因リ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シ若クハ偽印ヲ使用シタル者ハ云々ト指定セラレノコトヲ希望ス

第二百七條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處

スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ此節ニ記載シタル罪ニ付テハ輕罪ノ刑ニモ亦監視ヲ附加スル旨ヲ定ム

官文書ヲ偽造變造シ又ハ之ヲ毀棄スル罪ハ公益ヲ害スル大ニシテ其性質タル重罪ナリ故ニ減輕ニ因リ輕罪ノ刑ニ處スルトキト雖モ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ以テ犯人ノ動靜ヲ監視シ其懲悔ノ實否ヲ試察スヘシト定メヌリ

○ 附言

本條ノ罪ハ皆十重罪ナレハ其未遂犯ハ當然總則ニ從ヒ一等又ハ二等ヲ減シテ之ヲ罰セサルヘカラス故ニ

本節ニ定メタル罪ハ何時ヨリ其施行ニ着手シタルモノナリヤノ點ヲ論定スルハ殊ニ緊要事ナリトス曩ニ第百八十六條ニ於テ貨幣偽造ノ罪ニ付キ開説シタル如ク偽造變造ニ着手シタルヨリ之ヲ行使スルマテナ以テ其罪ノ施行ト爲ス(詔書ハ偽造變造ノミニテ既ニ本罪ヲ成スカ故ニ偽造變造既ニ成リタルトキハ未ダ行使セスト雖モ既ニ施行ヲ終リタルモノトス)ヘキナリ或ハ曰ハン官文書ヲ偽造變造スルハ豫備ノ所爲ニシテ罪ノ本體ニ非スト今法律ニ依ラスシテ其性質ヲ探究スルトキハ或ハ然ラント雖モ既ニ法律ニ於テ偽造變造シテ行使シタルノ所爲ヲ合シテ一罪ト爲シタル以上ハ必スシモ罪ノ本體トイフヘク豫備ノ所爲トイフヘカラサルナリ

又本節ニ於テハ官ノ文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ヲ罰シテ情ヲ知テ偽造變造ノ官文書ヲ行使シタル者ヲ罰セス蓋シ法ノ闕典トイフヘシ或曰ク偽造變造ニ係ル官文書ヲ行使スル者ハ必ス其偽造變造ニ加功シタル者ナリ故ニ特ニ此點ヲ定ムルニ及ハスト豈然ラシヤ公債證書ノ如キハ實際其偽造變造ニ加功セス唯情ヲ知テ之ヲ行使スル者アリ故ニ本節ニモ亦第百二十六條ト同一ノ規則ヲ設ケラレンコトヲ希望ス佛刑法第百四十八條ニ於テハ偽造ノ文書ヲ使用シタル者ヲ罰スルニ之ヲ偽造シタル者ト同一ノ刑ヲ以テセリ然レトモ吾カ刑法ニ於テハ官文書ヲ偽造變造シテ

行使シタルノ所爲ヲ以テ本罪ト爲シタルカ故ニ單ニ行使シタルニ止マル者ハ一等又ハ二等ヲ減シテ罰スルヲ可トス又情ヲ知ラズシテ之ヲ受取り後チ其偽造變造タルヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其情最モ輕キカ故ニ最輕ノ刑ヲ適用スルノ法ヲ設ケラルヘキナリ

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

○本節凡テ五條私印私書ヲ偽造スル罪ヲ定ム私印トハ官印ニ對スルノ稱ニシテ私書トハ官文書ニ對スルノ語ナリ今私印私書ヲ偽造スルノ罪ヲ以テ一般ノ信用ヲ害スル罪ノ中ニ列シタルモノハ是レ私印私書ト雖モ亦官印官文書ト同ク一般ノ信用ヲ要スルモノナル

カ故ナリ

前節ニハ官文書毀棄ノ罪ヲ定メタリト雖モ本節ニハ唯偽造變造ノ罪ヲ定メタルノミ私文書毀棄ノ罪ハ特ニ第四百二十四條ニ之ヲ定メタリ是レ詔書ヲ毀棄スルハ朝憲ヲ蔑如スルノ所爲ニシテ官ノ文書ヲ毀棄スルハ公權ヲ蔑如スルノ所爲ナルヲ以テ之ヲ第二篇中ニ記入シテ敢テ其妨ケナシト雖モ私文書毀棄ノ罪ハ一般ノ信用ヲ害スルコトナク又公益ニ關スル罪ニ非ス故ニ之ヲ第二篇中ニ記入スルヲ得サルカ故ナリ

第二百八條

他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解 ○使用トハ押用チイフモノニ非ス

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者及ヒ他人

ノ印影ヲ盗用シタル者ノ罪ヲ定ム

私印ハ之ヲ偽造シタルノミニテハ未タ罪ヲ成サス之ヲ

使用シタルニ至テ始テ罪アリトス蓋シ至理ノ法トイフ

ヘシ

〔二〕〇第一項 本項ハ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者

ノ罪ヲ定ム

他人ノ私印トハ何ソヤ高木氏刑法曰ク私印トハ官印ニ

對スルノ稱ニシテ人民各自ノ實印ヲ云フト村田小笠原

兩氏モ亦其說ヲ同フセリ然レトモ余謂ヘラク私印トハ

強チ實印ノミチイフモノニ非ス認印ノ如キ仕切判ノ如

キモノト雖モ其權利義務ヲ證スルノ効アル者ハ亦タ是

レノ私印ナリ之ヲ偽造シテ使用シタル者ハ必ス本條

ニ依テ之ヲ罰セサルヘカラス反對論者或ハ曰ハン官印

偽造ノ節ニハ御璽國璽各官署ノ印產物商品等ニ押用ス

ル官ノ記號印章書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ト

チ明記シ各自其刑ヲ異ニシタリト雖モ本條ニハ此ノ如

キ區別ナシ是レ其實印ニ限レルヲ證スルモノナリ若シ

然ラスンハ官印ニ在テハ其印ノ性質ニ因リ刑ニ輕重ア

ルモ私印ニ付テハ替ナ之ヲ同刑ニ處セサルヘカラサル
 ノ不權衡ヲ生スヘシト余曰ク官印偽造ノ罪ハ書籍什物
 等ニ押用スルモノヲ除クノ外皆ナ重罪ナリ而シテ重罪
 ノ刑ハ其長短兩期ノ間僅ニ三年乃至四年ニ過キサルカ
 故ニ各種ノ官印ヲ偽造シタル者ノ爲メ一ノ刑ヲ設クル
 トキハ或ハ嚴ニ失スルアラフコトヲ恐ル故ニ其種類ニ
 因テ刑ニ輕重ヲ設ケヌリト雖モ本條ノ刑ハ六月以上五
 年以下五圓以上五十圓以下ニシテ其長短多寡ノ相距ル
 多キカ故ニ各種ノ私印偽造ノ罪ニ之ヲ適用スルモ實際
 其種類ノ如何ト其情狀ノ輕重トニ因リ相當ノ刑ヲ選定
 スルヲ得ヘシ且官印偽造ニ付キ其種類ヲ別テ私印偽造
 ニ付キ其種類ヲ別テサルハ是レ却テ私印ノ語中ニハ各

種ノ私印ヲ包含スルヲ證スルモノナリ若シ然ラズンハ
 本條ノ私印トハ官印偽造ノ何レノ條ニ定メタル印ト同
 性質ノモノ、ミチ指スト爲ス乎反對論者亦之カ確答ヲ
 爲スヲ得サルヘシ右ノ如キ理由アルカ故ニ余ハ斷シテ

本條ニ所謂私印トハ權利義務ヲ證スルニ足ルヘキ各種
 ノ私印ヲ指スモノニシテ強チ實印ニ限レルモノニ非ス
 トス

○本條ニ所謂使用トハ曩ニ第百九十四條ニ於テ開說シ
 タル如ク單ニ押用ヲ指スモノニ非ス之ヲ用立ツルナ
 フモノナリ故ニ他人ノ私印ヲ偽造シテ之ヲ文書ニ押用
 シタル者ハ未遂犯罪ヲ以テ論スヘク既遂罪ヲ以テ論ス
 ヘカラサルナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ノ罪ヲ定ム

盗用トハ真正タル印ヲ其所有主ノ承諾ナクシテ之ヲ使用スルヲイフ盗用ノ用ハ使用ト其義解チ同フスヘキナリ

本項印影ヲ盗用シタル者ヲ罰スルニ一等ヲ減シタルノ刑ヲ以テスルモノハ是レ印章ハ各自之ヲ守護スルモノナレハ之ヲ盗用セラル、ハ其所有主ニ懈怠アリ即チ此罪ヲ犯スニ難ク之ヲ防クニ易キヲ以テナリ

第二百九條

爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス〔刑〕四二四、

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ爲替手形約定手形等ヲ偽造變造シテ行使シタル者及ヒ手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ手形ノ類ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

爲替手形トハ振出人ヨリ支拂人ニ宛テ記載ノ金額ヲ受

取人又ハ其所有權ヲ受ケタル者ニ拂渡サシムル證券ヲ
 イフ而シテ其拂期限ノ如何ニ因リ之ヲ數種ニ區別スヘ
 シ其手形ノ呈示ヲ受ケタルトキ直チニ支拂フヘキモノ
 ナ一覽拂爲替手形トイヒ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ
 ヘキモノヲ定期拂爲替手形トイヒ一覽濟ノ日ヨリ其日
 數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フヘキモノナ一
 覽後定期拂爲替手形トイフ爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所
 有權ヲ移轉スルヲ得ルモノナリ又裏書ヲ以テ賣買スヘ
 キ證書トハ爲替手形ヲ除キ他ノ裏書ヲ以テ所有權ヲ移
 スヲ得ル一切ノ證書ヲイフ又約定手形トハ振出人記載
 ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル者ニ自ラ支拂
 フヘキ旨ヲ約シタル證券ヲイヒ唯定期拂ノ一種アルニ

過キサルナリ右爲替手形約定手形ノ解ニ據ル明此等凡
 百ノ證券手形ハ社會ノ融通ヲ圓滑ナラシムルモノニシ
 テ殊ニ商業上ノ如キ其緊急水火猶ホ管ナラス且最モ信
 用ヲ貴ムモノナルカ故ニ之ヲ偽造シ若クハ變造シテ行
 使シタル者ハ其害亦頗ル淺少ナラス故ニ之ヲ重罪トシ
 輕懲役ニ處スヘシト定メタリ

(三)〇第二項 本項ハ其手形證書ニ詐欺ノ裏書ヲ爲シテ行
 使シタル者亦同シキ旨ヲ定ム
 手形證書ヲ偽造變造セスト雖モ詐欺ノ裏書ヲ爲シテ之
 ナ行使シタル者ハ恰モ之ヲ偽造變造シテ行使シタルト
 同ク其害ヤ大ナリ故ニ前項ト同ク之ヲ輕懲役ニ處スヘ
 シト定メタリ

○佛刑法第四百四十七條

全文二百四十四條ニ

同第四百五十條 凡ソ第四百四十七條ニ記載シタル方法

ノ一ニ依リ私書ヲ偽造シタル者ハ懲役ニ處セラ

ルヘシ〔刑〕七、二一以下、二八以下、三

同第四百五十一條 偽造ノ文書ヲ使用シタル者ハ同刑

ニ處セラレハシ〔刑〕七、二一以下、二八以下、

第二百十條

賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造

シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以

下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス〔刑〕四、二四、

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕○本條ハ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造變造シテ行使シ
タル者及ヒ其他ノ文書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ
罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關
スル證書ヲ偽造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム
賣買貸借贈遺交換ノ證書トハ其義既ニ明了ナレハ別ニ
解釋ヲ要セス其他權利義務ニ關スル證書トハ受領證ノ

此種ノ證書ハ蓋シ總テ財產上ニ關スル證書ナリトモ亦之ヲ包含スヘキ乎余謂ヘラク本項ニハ買賣貸借云々其他權利義務ニ關スル證書トアリテ例ヲ買賣貸借等ニ資リタルヲ以テ見レハ蓋シ總テ財產上ニ關スル證書ナリトモ亦之ヲ包含スル證書ハ之ニ與カラサルヘシ

如キ此類ヲ云フ此權利義務ニ關スル證書トハ唯財產上ノ證書ヲ指ス乎將タ身上ニ關スル證書ヲモ亦之ヲ包含スヘキ乎余謂ヘラク本項ニハ買賣貸借云々其他權利義務ニ關スル證書トアリテ例ヲ買賣貸借等ニ資リタルヲ以テ見レハ蓋シ總テ財產上ニ關スル證書ナリトモ亦之ヲ包含スル證書ハ之ニ與カラサルヘシ
右權利義務ニ關スル證書ハ前條ノ手形證書ノ如ク信用ヲ要スルモノニ非ス從テ之ヲ偽造變造シテ行使スルモ其害ノ波及スル所亦大ナラス故ニ之ヲ輕罪トシ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ

〔三三〇〕第二項 本項ハ前項ニ定メタルヨリ以外ノ私書ヲ偽

造變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

其餘ノ私書トハ財產上ノ權利義務ニ關スル證書ヲ除クノ外他一切ノ私書チイフ通常書簡ノ如キ亦其一ナリトス此等ノ私書ヲ偽造變造スルトキハ人ノ身上若クハ其名譽ニ關シ或ハ大ナル損害ヲ及ホスコトアルヤモ知ルヘカラスト雖モ而モ概シテ前項ノ證書ヲ偽造變造シテ行使シタルヨリモ其害小ナリトス故ニ一月以上一年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ

○佛刑法第百五十條 前條ニ全交ヲ揭ク

同第百五十一條 上同

第二百一十一條

第二百一十一條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑〕一一三、

○本條ハ此節ノ罪ニ付テハ輕罪ノ未遂犯ト雖モ仍ホ之ヲ罰スル旨ヲ定ム猶ホ夫ノ第四百四十九條第五百十九條第四百七十條等ト全ク其主旨ヲ同フス

本節ノ罪ハ何時ヨリ其施行ニ着手シタルモノト爲スヘキ乎ノ點ハ前節ノ附言ニ開說シタル所ニ同シ故ニ此ニ復說ノ勞ヲ取ラズ

第二百十二條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○本條ハ此節ニ記載シタル罪ニ付テハ輕罪ノ刑ニモ亦

監視ヲ附加スル旨ヲ定ム猶ホ夫ノ第二百七條ト全ク其

主旨ヲ同フス

○ 附言

本節ニ於テハ私印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルノ罪及ヒ私書ヲ偽造變造シテ行使シタルノ罪ヲ定メタリト雖モ偽印ヲ使用シタル罪及ヒ偽造變造ニ係ル私書ヲ行使シタル罪ヲ定メテ恐クハ法ノ闕典ナラン故ニ情ヲ知テ偽印ヲ使用シ又ハ偽造變造ニ係ル私書ヲ行使シタル者ノ罪ヲ補定セラレシコトヲ希望ス然リ而シテ單ニ情ヲ知テ行使シタル者ハ自ラ偽造變造シテ使用行使シタル者ニ比スレハ其情輕シ故ニ二等ヲ減

シ又爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ證書等ニ付テハ往々之ヲ受取リタル後其偽造變造タルヲ知リ之ヲ行使スル者アルヘシ此等ノ者ハ情ヲ知テ偽造變造ニ係ル私書ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ニ比スレハ其情亦大ニ輕シ故ニ最輕ノ刑ヲ設ケラルヘキナリ又本節ニハ私書ヲ偽造スルニ因リ私印ヲ偽造シテ使用シ若クハ之ヲ盜用シタルトキノ規則ヲ定メス此點タル道理上之ヲ私印偽造ノ條ニ比照シ重キニ從テ處斷スルヲ得サルニ非スト雖モ此ノ如キハ刑法ヲ解釋スルノ法ニ反スルノ嫌アリ故ニ亦之ヲ補定シ第二百六條ト同一ノ規則ヲ設ケラレシコトヲ希望ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

○本節凡テ五條免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪ヲ定ム

免狀鑑札ハ其性質タル官文書ナリ又醫師ノ疾病證書ハ其性質多クハ私書ナリ然レトモ之ヲ他ノ官文書若クハ私書偽造ト同一ノ刑ニ處スルヲ得サルカ故ニ特ニ本節ヲ設ケタリ

第二百十三條

官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪 第二百十三條

○本條ハ官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム

官ノ免狀トハ版權免許狀代理人免許狀醫術開業免狀ノ類ヲイヒ鑑札トハ酒造賣藥烟草營業鑑札俳優藝娼妓鑑札ノ類ヲイフ此等免狀鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一般ノ信用ヲ害スト雖モ而モ其害ノ及フ所大ナラス且此罪タル多クハ納税ヲ免カレンカ爲メニ行フ所ノモノニシテ税則ノ點ニ付テハ別ニ之カ罰則アレハ其性質タル官ノ文書ナリト雖モ之ヲ偽造シテ行使シタル者ヲ罰スルニ一月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ以テセリ然レトモ免狀鑑札ヲ偽造スルニ因リ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ數罪俱發ノ例ニ

照シ重キ偽造官印ノ條ニ依リ之ヲ罰スヘシト定ム是レ免狀鑑札ヲ偽造シタルカ爲メニ重キ偽造官印ノ罪ヲ免カル、ノ理ナキニ由ル

本條ニハ單ニ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者トアレトモ偽印ヲ使用シタル者モ亦偽造官印ノ條ニ依テ處斷スヘキナリ但此點ハ速ニ之ヲ補定シ以テ世人ノ疑惑ヲ氷解セシメラレノコトヲ希望ス

或問テ曰ク本條ニ所謂行使トハ偽造ノ免狀鑑札等ニ依リ無免狀無鑑札ニテ爲ヌヲ得サル事ヲ行フチイフ乎將タ其免狀鑑札ヲ以テ真正ノ免狀鑑札ヲ誣ユル者チイフ乎ト曰ク免狀鑑札ヲ偽造シテ無免狀無鑑札ニテ爲ヌヲ得サル事ヲ行ヒタルハ無免狀無鑑札ニテ事ヲ爲シタル

モノ、ミ之ヲ以テ免狀鑑札ヲ行使シタリトイフヲ得ス
故ニ其偽造ニ係ル免狀鑑札ヲ以テ人ヲ誑カシ己レ眞ノ
免狀鑑札ヲ受ケタリト信セシメント爲シタルトキ之ヲ
行使シタリトイフヘキナリ

○佛刑法第百五十三條千八百三十三年
五月十三日改正 何人ニ限ラズ

往來手形銃獵免狀ヲ偽造シ又ハ元ト眞正ナル往來
手形銃獵免狀ヲ變造シ又ハ偽造變造ニ係ル往來手
形銃獵免狀ヲ使用シタル者ハ六月以上三年以下ノ

禁錮ニ處セラレヘシ刑九、四〇以下、
治一七九

同第百五十六條千八百三十三年
五月十三日改正 何人ニ限ラス軍人
ノ路券ヲ偽造シ又ハ元ト眞正ナル路券ヲ變造シ又
ハ偽造變造ニ係ル路券ヲ使用シタル者ハ左ノ如ク

罰セラレヘシ

偽造路券ノ目的トスル所唯官署ノ監視ヲ欺クニ在
ルトキハ六月以上三年以下ノ禁錮

官署ヨリ偽造路券ノ所持人ニ其得ヘカラサル旅費
又ハ其得ヘキ額ヲ超過シタル旅費ヲ拂ヒタルトキ
ハ一年以上四年以下ノ禁錮但百フラン以下ナル
トキニ限ル

若シ路券所持人ニ於テ不正ニ受取リタル金額百フ
ランク以上ナルトキハ二年以上五年以下ノ禁錮
右第二第三ノ場合ニ於テハ犯人尙ホ其刑ヲ受ケ了
リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四
十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラレ、コトアル

ヘシ

犯人ハ又裁判言渡ニ因リ同一ノ年限間監視ニ付セラル、コトアルヘシ〔刑〕九、四〇以下、四四、〔治〕一以下、一

同第六十一條五月八日改正何人ニ限ラズ官吏

又ハ公務人ノ名義ヲ以テ善行、赤貧其他政府又ハ人民ヲシテ好意ノ情ヲ起サシメ其人ノ爲メ職務、信用、

救助ヲ得セシムヘキ模様ノ保證狀ヲ偽造シタル者ハ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

同一ノ刑ヲ第一初メ下付セラレタル人ヨリ以外ノ人ニ用立テンカ爲メ元來真正ナル此種ノ保證狀ヲ

變造シタル者第二偽造變造ニ係ル保證狀ヲ使用シタル者ニ適用スヘシ

若シ此保證狀ヲ人民ノ名義ヲ以テ造リタルトキハ偽造者及ヒ使用者ハ十五日以上六月以下ノ禁錮ニ

處セラルヘシ〔刑〕九、四〇以下、一六三以下、〔治〕一七九、

同第六十二條 他ノ性質ノ偽造保證狀ニシテ第三ノ人ニ對シ又ハ官庫ニ對シ損害ヲ生スヘキモノハ

其場合ニ因リ本編第三節及ヒ第四節ノ規則ニ從ヒ罰セラルヘシ

第二百十四條

屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス〔刑〕二三一、官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加

第二百十四條

五六九

フ[刑]一五、七項ニ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○情ヲ知テ證人ト爲リタル者ハ如何

○屬籍氏名等ヲ詐稱シタリト雖モ之カ爲メニ免狀鑑札ヲ受ケタルコ非サルトキハ如何

三 第二項ノ解○官吏情ヲ知ルト雖モ其實免狀鑑札

ヲ下付スヘキ者ニ之ヲ下付シタルトキハ如何

[一]〇本條ハ免狀鑑札ヲ偽造變造セス唯詐僞ノ所爲ヲ以テ之ヲ受ケタル者及ヒ官吏情ヲ知テ之ヲ下付シタル者ノ罪ヲ定ム

[二]〇第一項 本項ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ノ罪ヲ定ム

人當然受クヘカラサル免狀若クハ鑑札ヲ受ケンカ爲メ屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他何事ニ限ラス詐僞ノ所爲ヲ施シ之ヲ受ケタル者ハ官ヲ欺クノ罪アリ故ニ之ヲ罰セサルヘカラス然レトモ之ヲ自ラ免狀鑑札ヲ偽造變造シテ行使シタル者ニ比スレハ其害小ナリ是レ主任官吏ハ免狀鑑札ヲ下付スルニ當リ充分ニ其屬籍氏名等ヲ調査シ且之ヲ下付スヘキモノナリヤ否ヲ檢定スヘキモノナレハ人民ニ於テ詐僞ノ所爲ヲ施シ其下付ヲ得ントスルモ實際之ヲ遂クルニ難ク且官ニ於テハ充分ニ其詐誕ヲ看破シ之ヲ下付セサルヲ得ヘキカ故ニ本項ノ罪ハ之ヲ犯スニ難ク之ヲ防クニ易ケレハナリ

○或問テ曰ク情ヲ知テ本項犯人ノ證人ト爲リタル者ハ

如何ト曰ク此レ本條ノ罪ノ正犯ナリ何トナレハ己レ免
 狀鑑札ヲ受クルニ非スト雖モ情ヲ知り詐僞ノ所爲ヲ以
 テ免狀鑑札ヲ受クルノ事ニ加功シタルモノナレハナリ
 ○或問テ曰ク屬籍氏名等ヲ詐稱シタリト雖モ之カ爲メ
 ニ免狀鑑札ヲ受ケタルニ非サルトキハ如何ト曰ク本項
 ニ所謂屬籍氏名等ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テスル
 コトハ其當然受クヘカラサル免狀ヲ受クルノ一手段ニ
 シテ法律ノ主トシテ罰スル所ハ當然得ヘカラサル免狀
 鑑札ヲ欺テ受ケタルノ所爲ナリ故ニ屬籍氏名等ヲ詐稱
 シタルノ所爲ト免狀鑑札ヲ受ケタルノ事實ト全ク關係
 ナキトキハ第二百三十一條ニ依リ之ヲ罰スルハ格別本
 項ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得サルナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ官吏情ヲ知テ免狀鑑札ヲ下付シタル
 者ノ罪ヲ定ム

主任官吏ニ於テ免狀鑑札ヲ下付スルハ最モ爲シ易ク且
 防キ難シ加之官吏ハ固ト免狀鑑札ノ下付ヲ願フ者アル
 トキ果テ之ヲ下付スヘキヤ否ヲ檢定スルノ任アリ然ル
 ニ其任ヲ盡サス却テ其情ヲ知り當然下付スヘカラサル
 者ニ之ヲ下付スルハ獨リ其職務ヲ傲格セサルノミナラ
 ズ又之ヲ冒瀆スルモノナリ故ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰ス
 ヘシト定メタリ而シテ爰ニ一ノ難問アリ官吏情ヲ知テ
 免狀鑑札ヲ下付シタルノ所爲ハ偽造ノ一種ナル乎將メ
 全ク偽造ノ性質ヲ有セサルモノナル乎ノ點是レナリ若
 夫レ偽造ニ非ストセハ本條ノ刑適當ナルヘシト雖モ

第二百十四條

五七三

美屋ヨリ下付
 者ニ之ヲ下付スルハ獨リ其職務ヲ傲格セサルノミナラズ
 又之ヲ冒瀆スルモノナリ故ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スヘシト定メタリ而シテ爰ニ一ノ難問アリ官吏情ヲ知テ免狀鑑札ヲ下付シタルノ所爲ハ偽造ノ一種ナル乎將メ全ク偽造ノ性質ヲ有セサルモノナル乎ノ點是レナリ若夫レ偽造ニ非ストセハ本條ノ刑適當ナルヘシト雖モ
 第二百十四條
 五七三

苟モ偽造ノ性質ヲ有スルモノトセハ前條ノ刑ヨリモ重
 シ之ヲ罰スル乎少ナクトモ前條ト同一ノ刑ニ處セサル
 へカラス故ニ此點ヲ論決スルハ敢テ無要ノ辨ニ非サル
 ナリ今本項ニ於テ官吏ヲ罰スルニ唯前項ノ刑ニ一等ヲ
 加ヘタルノ刑即チ十八日以上七月十五日以下ノ重禁錮
 二圓五十錢以上二十五圓以下ノ罰金ヲ以テスルニ過キ
 サルニ因テ之ヲ觀レハ立法官ハ本項ノ罪ヲ以テ偽造ニ
 非スト爲シタルモノ、如シ又一方ヨリ觀察チ下ストキ
 ハ免狀鑑札等ニハ明暗ニ其免狀鑑札ヲ受クヘキ者ノ屬
 籍身分氏名及ヒ免狀鑑札ヲ受ケ得ヘキ者ナルコトヲ證
 スルモノナリ然ルニ其屬籍氏名等ノ不實ナルヲ知り又
 其當然免狀鑑札ヲ受ケ得ヘカラスナル者ナルヲ知テ之ヲ
 下付シタルハ是レ實ヲ變シタルモノナリ而シテ情ヲ知
 テ之ヲ下付シタルヤ惡意ナシトイフヲ得ス且其所爲タ
 ル害ノ因テ生シ得ヘキモノナレハ其性質タル偽造ナル
 カ如シ余謂ラシ本項ノ官吏ハ前項ノ罪ヲ犯シタル者ノ
 共犯ナレハ本項ノ罪ハ全ク前項ト其性質ヲ同フス故ニ
 本項ヲ論決セント欲セハ先ツ前項ノ罪ノ性質如何ヲ探
 究セサルヘカラス抑前項ノ罪ハ單純ナル詐言ニシテ詐
 僞ノ性質ヲ有セサルモノ、如シト雖モ深ク其性質ヲ稽
 釋スルトキハ亦是レ一ノ詐僞ナリトス何トナレハ實ヲ
 變スルコト惡意アルコト害ノ因テ生ヌヘキコトノ三條
 件ヲ具備スルモノナレハナリ故ニ本項ノ罪モ亦詐僞即
 チ偽造ノ一種ト爲サ、ルヘカラス夫レ然リ然ラハ則チ

備ニ前項ノ刑ニ一等ヲ加ヘタルモノヲ以テ之ヲ罰スル
 ハ恐クハ刑ノ和均ヲ誤ルモノナラン本條第一項ノ刑前
 條ノ刑ノ半ハニ過キササルハ是レ其犯シ難ク防ヤ易キカ
 故ナリ然ルニ主任官吏ニ於テ當然下付スヘカラサル者
 ニ免狀鑑札ヲ下付スルハ爲シ易ク防キ難ク常人ノ免狀
 鑑札ヲ偽造變造スルヨリモ却テ其害大ナルモノナリ今
 此害ノ大ナル點ト官吏其職務ヲ冒瀆スルノ點トヲ合觀
 スルトキハ必シモ本項ノ罪ハ前條ノ罪ヨリ重ク罰セサ
 ルヘカラス然ルニ前條ノ刑一月以上一年以下四圓以上
 四十圓以下ニシテ本項ノ刑十八日以上七月十五日以下
 二圓五十錢以上二十五圓以下ニ過キササルハ蓋シ偏重ナ
 リトイフヘシ故ニ余ハ立法官ニ向テ速ニ此點ノ改正ア
 ランコトヲ希望ス

○或問テ曰ク官吏情ヲ知テ免狀鑑札ヲ下付シタリト雖
 モ其實免狀鑑札ヲ下付スヘキ者ナルトキハ如何ト曰ク
 本項ノ罪モ亦當然下付スヘカラサル者ニ免狀鑑札ヲ下
 付シタルニ成ルモノナリ故ニ之ヲ下付シタリト雖モ其
 實免狀鑑札ヲ下付スヘキ者ナルトキハ其罪ヲ問フヘカ
 ラサルナリ

○佛刑法第百五十四條千八百六十三年五月十三日改正 何人ニ限ラス
 往來切手又ハ銃獵免狀ヲ受クルニ付キ想像ノ名ヲ
 用ヒ又ハ想像ノ名前人ニ往來切手ヲ下付セシムル
 爲メ證人ト爲リシ者ハ三月以上一年以下ノ禁錮ニ
 處セララルヘシ

凡ソ自己ノ名ニ非サル人名ヲ以テ下付シタル往來切手又ハ銃獵免狀ヲ使用シタル者ニハ同上ノ刑ヲ適用スヘシ

旅舎ノ主人簿冊ニ故ラニ旅客ノ偽名又ハ想像ノ名ヲ記載シ又ハ旅客ト通シテ其名ヲ記載セサルトキハ六日以上三年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ 〔刑〕九、四〇以下、

〔治〕一七五、九、

同第百五十五條 五月八日三十日改正年 上等官吏其親ク知

ラサル者ニ其知リタル國民二名ヲシテ其氏名身分ヲ證セシメスシテ往來切手ヲ下付シ又ハ下付セシメタル者ハ一月以上六年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

若シ官吏想像ノ名ナルコトヲ知テ往來切手ヲ下付シ又ハ下付セシメタルトキハ一年以上四年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ

犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラル、コトアルヘシ 〔刑〕九、四〇以下、一五四、

同第百五十七條 五月八日三十日改正年 前條ニ定メタル刑

ハ同條ニ定メタル區別ニ從ヒ官吏ヲシテ想像ノ名ニテ軍人ノ旅券ヲ下付セシメタル者又ハ自己ノ名ニ非サル人名ヲ以テ下付シタル旅券ヲ使用シタル者ニ之ヲ適用スヘシ 〔刑〕一五八、

同第百五十八條 五月八日三十日改正年 若シ官吏軍人ノ旅

券ヲ下付スルトキ想像ノ名タルコトヲ知リタルト
キハ左ノ如ク罰セラルヘシ第百五十六條ニ定メタ
ル第一ノ場合ニ於テハ一年以上四年以下ノ禁錮^刑
〔四〕一〇以下、

同條第二ノ場合ニ於テハ二年以上五年以下ノ禁錮
〔刑〕九、四〇以下、

第三ノ場合ニ於テハ懲役^刑七、二一以下、二八以下、三
第一第二ノ場合ニ於テハ犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了
リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四
十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラル、コトアル
ヘシ

第二百十五條

公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書
ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲
メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス^刑一七九以下、
醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等
ヲ加フ

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解○醫師ニ囑託シテ詐偽ノ疾病證書ヲ
造ラシメタル者ハ如何○公務ヲ免カル、爲メ疾
病證書ニ非サル他ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル
者ハ如何

三 第二項ノ解○醫師囑託ヲ受ケスシテ詐偽ノ疾病

證書ヲ造リタルトキハ如何○本項ノ罪ハ偽造ノ
ミニ成ルモノナル乎

〔一〕○本條ハ公務ヲ免カル、爲メ疾病證書ヲ偽造シタル者
ノ罪ヲ定ム

〔三〕○第一項 本項ハ公務ヲ免カレ又ハ之ヲ免カレシムル
爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタ
ル者ノ罪ヲ定ム
公務ヲ免カル、爲メトハ證人鑑定人ト爲ル如キ國民タ
ル者公益ノ爲メニ盡スヘキ義務ヲ免カル、ナイフ官吏
其出仕ヲ免カル、カ如キ亦公務ヲ免カル、モノトイフ
ヘシ總テ此等公務ヲ免カレシムルカ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ
疾病證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ其目的ヲ達シタル

ト否トチ問ハス又其自己ノ爲メニスルト否ト論ナク
本項ニ依リ之ヲ處斷スヘシ是レ此所爲タル詐偽ニシテ
公益ヲ害スル小ナラサレハナリ然レトモ若シ公務ヲ免
カル、カ爲メニ非サルトキハ本條ノ正面ニ當ラズ例ヘ
ハ被告人出廷ヲ免カレシムルカ爲メ疾病證書ヲ偽造シテ行
使シタル場合ノ如キ被告人ノ出廷スルハ公務ニ非サレ
ハ本條ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得サルナリ然レトモ此場
合ニ於テハ必スシモ全ク其刑ヲ免カルヘキモノニ非ス
若シ通常文書偽造罪トシテ罰スヘキモノハ仍ホ其適條
ニ依テ處斷セサルヘカラサルナリ

醫師ノ氏名ヲ用ヒタルコトハ本項ニ在テ最モ必要トス
是レ醫師ニ非サル者ノ疾病證書ハ全ク其效ナキモノナ

レハ之ヲ偽造ナルモ害ノ因テ生スルコトアラサレハナ
リ故ニ若シ想像ニ係ル醫師ノ氏名ヲ用ヒタルトキハ唯
其公務ヲ免カル、ノ罪ヲ問フヘク本項ニ依テ處斷スル
ヲ得サルヘシ

○或問テ曰ク醫師ニ囑託シテ詐偽ノ疾病證書ヲ造ラシ
メ之ヲ行使シタル者ハ如何處分スヘキ乎ト曰ク本項ニ
所謂偽造トハ自ラ偽造スルノミチイフモノニ非ス人ヲ
シテ偽造セシメタル場合モ亦之ヲ包含スルモノナリ故ニ
此場合ト雖モ仍ホ本項ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラス

○或問テ曰ク公務ヲ免カレンカ爲メ疾病證書ニ非サル
他ノ證書ヲ偽造シタルトキハ如何處分スヘキ乎ト此點
ニ付テハ甲乙二説アリ甲曰ク公務ヲ免カレンカ爲メニ

白り不問ニ付
乙曰ク本條ハ官ノ
證書ニ及ホサル以上ハ他ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル
者ハ之ヲ不問ニ付セサルヘカラスト乙曰ク本條ハ官ノ
文書及ヒ私文書偽造罪ノ特例ヲ定メタルモノナリ故ニ
疾病證書ヲ偽造シタル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルモ他
ノ證書ヲ偽造シタル者ハ其目的公務ヲ免カル、ニ在ル
モ仍ホ正則ニ復シ本章第三節第四節ノ正條ニ依テ之ヲ
處斷スヘシ決テ之ヲ不問ニ付スヘカラスナリト余ハ
乙説ヲ以テ能ク其當ヲ得タリトス何トナレハ本條ハ通
常文書偽造罪ノ特例ヲ定メタルモノニシテ若シ本條ノ
設ケナキトキハ疾病證書ヲ偽造シタル者モ亦通常文書

證書ヲ偽造シタルノ所爲ヲ罰スルノ法ハ本條ヲ除ヒテ
他ニ之レアルコトナシ故ニ本條ヲ改メテ廣ク各種ノ證
書ニ及ホサル以上ハ他ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル
者ハ之ヲ不問ニ付セサルヘカラスト乙曰ク本條ハ官ノ
文書及ヒ私文書偽造罪ノ特例ヲ定メタルモノナリ故ニ
疾病證書ヲ偽造シタル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰スルモ他
ノ證書ヲ偽造シタル者ハ其目的公務ヲ免カル、ニ在ル
モ仍ホ正則ニ復シ本章第三節第四節ノ正條ニ依テ之ヲ
處斷スヘシ決テ之ヲ不問ニ付スヘカラスナリト余ハ
乙説ヲ以テ能ク其當ヲ得タリトス何トナレハ本條ハ通
常文書偽造罪ノ特例ヲ定メタルモノニシテ若シ本條ノ
設ケナキトキハ疾病證書ヲ偽造シタル者モ亦通常文書

偽造罪ノ適條ニ依リ處斷スヘキモノナレハナリ

〔三〕○第二項 本項ハ醫師囑託ヲ受ケテ詐偽ノ疾病證書ヲ造リタル者ノ罪ヲ定ム

醫師囑託ヲ受ケテ詐偽ノ疾病證書ヲ造リタルトキ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スルモノハ是レ其犯シ易ク防キ難キカ故ヘナリ

○或問テ曰ク醫師囑託ヲ受ケスシテ詐偽ノ疾病證書ヲ造リタルトキハ如何處分スヘキ乎ト曰ク囑託ヲ受ケスシテ自ラ好シテ詐偽ノ疾病證書ヲ造ル如キコト實際甚タ稀レナリ故ニ立法官カ本項ニ囑託ノ語ヲ加ヘタルハ蓋シ之カ爲ナリ然レトモ囑託ヲ受ケスシテ詐偽ノ證書ヲ造ルコト未ダ必スシモ之レナキヲ保セス例ヘハ人醫

師ニ診斷ヲ依頼シタルニ醫師其公務ヲ免カレント欲スルノ意ナルヲ察知スルカ或ハ自ラ公務ヲ免カレシメント欲シ故ラニ詐偽ノ疾病證書ヲ造ル如キコト世間往々聞ク所ナリ若シ此ノ如キ者アラハ前項ニ依リ之ヲ罰スヘク本項ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得ス是レ解釋上法文ヲ擴張シテ重キ刑ヲ科スルハ法理ノ許サ、ル所ナレハナリ然レトモ道理上ハ囑託ヲ受ケサル場合ト雖モ仍ホ之ヲ重ク罰セサルヘカラス何トナレハ罪ヲ犯スニ易ク之ヲ防クニ難キノ點ニ至テ彼此ノ場合ニ於テ全ク相同シケレハナリ因テ本項ハ前條第二項ト同ク醫師情ヲ知テ云々ト改メラレシコトヲ希望ス

○或又問テ曰ク本項ノ罪ハ前項ト異ナリテ詐偽ノ證書

ヲ造リタルコ成リ人ノ之ヲ行使シタルト否トヲ問ハセ
ルモノナル乎ト高木村田小笠原ノ三氏ハ醫師詐偽ノ證
書ヲ交付シタリト雖モ之ヲ受ケタル者之ヲ行使セサル
間ハ其罪ナシト説ケリ蓋シ當レリ何トナレハ本項ハ醫
師ニ付キ一等ヲ加フヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ前項
ト相異ナル他ノ罪ヲ定メタルモノニ非サレハナリ

○佛刑法第百五十九條五月八日改正 凡ソ自ラ公務

ヲ免カレ又ハ他人ノ公務ヲ免カレシムル爲メ内科
醫外科醫又ハ「チフィシエー、ド、ザンテ」博士ニ非ス者ヲテ
フイノ名ヲ用ヒテ疾病又ハ癩疾保證狀ヲ造リタル者
ハ一年以上三年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ刑九、四〇以下

〔治〕一七九

同第百六十條五月八日改正 凡ソ内科醫外科醫其

他「チフィシエー、ド、ザンテ」人ヲ利センカ爲メ其公務ヲ
免カレシムヘキ疾病又ハ癩疾ノ詐偽ノ保證ヲ爲シ
タル者ハ一年以上三年以下ノ禁錮ニ處セラルヘシ
若シ贈與又ハ約束ニ因リ犯シタルトキハ其禁錮ハ
一年以上四年以下タルヘシ
二箇ノ場合ニ於テ犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル
日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條
ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラル、コトアルヘシ
第二ノ場合ニ於テ賂遺者ハ詐偽ノ保證狀ヲ交付シ
タル内科醫外科醫又ハ「チフィシエー、ド、ザンテ」同一
ノ刑ニ處セラルヘシ刑九、四〇以下、五九以下

第二百十五條

第二百十六條

陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ〔刑〕一七八、

○本條ハ陸海軍ノ徵兵ヲ免カレンカ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シタル者ノ罪ヲ定ム

陸海軍ノ徵兵ニ應スルハ均シク一ノ公務ナリ然レトモ此種ノ公務ハ最モ重要ナルモノニシテ且實際人民ノ最モ忌避スル所ナレハ之ヲ免カレンカ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ其刑前條ノ刑ヨリモ重カラサルヲ得ス是レ特ニ本條ノ設ケアル所以ナリ
本條ハ前條ノ特例ヲ定ムルモノナレハ其文簡ニシテ盡

サ、ル所アリト雖モ總テ前條ノ趣意ニ基キ之ヲ解セサルヘカラス即チ醫師ノ名ヲ用フルヲ要シ又其自己ノ爲メニスルト否トヲ問フヘカラサルナリ
疾病證書ヲ偽造スルニ非スシテ身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ徵兵ヲ免カレント圖リタル者ノ罪ハ既ニ第一百七十八條ニ於テ一年以上一年以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ今本條ト第一百七十八條トヲ比照スルトキハ彼此ノ間少シク其權衡ヲ失スルモノアルカ如シ本條ノ刑ハ第一百七十八條ノ刑ニ比シテ一等重シト雖モ願テ其罪情ヲ比較スルニ毫モ徑庭アルヲ見ス而シテ本條ノ刑ハ前條ノ刑ト相勘度スルニ決テ之ヲ輕フサルヲ得サルカ故ニ

第七十八條ノ刑ヲ重クシ而シテ本條ヲ改メ前略偽造シテ行使シタル者ハ第七十八條ニ照シテ處斷ス醫師情ヲ知テ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フト改メラレシコトヲ希望ス

第二百十七條

免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

○本條ハ免狀鑑札等ヲ變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定ム
前數條ニ於テハ唯免狀鑑札等ヲ偽造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定メテ之ヲ變造シテ行使シタル者ノ罪ヲ定メス故ニ本條ニ於テハ總テ本節ノ場合ニ通用スヘキ法ヲ定

メグリ

○佛刑法第百五十三條 第二百十三條ニ全文ヲ掲ク

同第百五十五條 同上

同第百六十一條 同上

○

附言

本節ニ於テモ亦第三節第四節ト同ク偽造變造ニ係ル免狀鑑札等ヲ行使シタル者ノ罪ヲ定メス恐クハ法ノ闕典ナラン故ニ前二節ニ於テ開說シタル如ク速ニ此點ヲ補定セラレシコトヲ希望ス

○

佛朗西刑法第百六十三條以下三條ハ貨幣ヲ偽造スル

罪國印銀行手形公債證券鑿錐印紙極印ヲ偽造スル罪
官文書公正文書商事及ヒ銀行ノ文書ヲ偽造スル罪私
書ヲ偽造スル罪及ヒ往來手形銃獵免狀軍人旅券及ヒ
保證狀ヲ偽造スル罪ニ通シ用フヘキ規則ヲ定ムルモ
ノナレハ左ニ之ヲ譯載ス

佛刑法第千百六十三條 偽造變造ニ係ル貨幣手形印
章印紙鑿錐極印及ヒ文書ヲ使用シタル者ニ適用ス
ヘキ刑ハ偽物ヲ使用シタル者其偽物タルコトヲ知
ラサルトキハ之ヲ適用スヘカラス〔刑〕一四八、

同第百六十四條 五月八日改正年 犯人ニ對シ百「フ」ラ
ンク以上三千「フ」ランク以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ然
レトモ罰金ノ額ヲ詐僞ニ因リ重罪輕罪ノ正犯從犯

又ハ偽物ヲ使用シタル者ニ生シ又ハ生スヘキ不正
ノ利得ノ四分ノ一マテニ上ラシムルコトヲ得〔刑〕九、
以下〔治〕一七九、

同第百六十五條 二月八日附勅書ヲ以テ廢ス十

第六節 偽證ノ罪

○本節凡テ九條偽證ノ罪ヲ定ム

偽證トハ刑事民事商事若クハ行政裁判所ニ於テ證人ト
シテ召喚セラレタル者事實ヲ詐陳スルチイフ凡ソ證人
ハ必ス其見聞セシ事實ヲ忠實ニ陳述セサルヘカラス然
ルニ其事實ヲ詐陳スルハ其目的トスル所ノ事件ニ因リ
大小ノ差アリト雖モ何レモ公益ヲ害スルモノナリ是レ

偽證ノ罪

本節ニ偽證ノ罪ヲ定メタル所以ナリ

第二百十八條

刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告
人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル
時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス〔治〕一八〇以下、

- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二
年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一
年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス
- 三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ

本條ニ依テ處斷ス〔刑〕四二五、

- 一 本條ノ主旨
- 二 證人ノ解〇證人ト爲ルヲ得サル者宣誓シタル後
偽證ヲ爲シタルトキハ如何
- 三 被告人ヲ曲庇スルノ意ナキトキハ其罪ナシ〇自
己ヲ曲庇スルカ爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ如何
- 四 事實ヲ掩蔽スルトハ如何ナル事ヲ指ス乎〇證人
全ク陳述ヲ肯セサルトキ又一分ヲ陳述シテ他ノ
一分ヲ陳述スルコトヲ肯セサルトキハ如何〇掩
蔽シタル事實罪ヲ證明スルニ必要ナルモノナル
ト否トヲ問ハサル乎
- 五 被告人偽證ヲ爲スニ當リ其重罪輕罪若クハ違警

罪タルコトヲ知得シタルヲ必要ト爲ス乎

六 事實參考人事實ヲ掩蔽シテ申立ヲ爲シタルトキ

之ヲ罰セサルハ能ク其當ヲ得タル乎

〔二〕〇本條ハ刑事ニ關スル證人被告人ヲ曲庇スル爲メ偽證
ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム

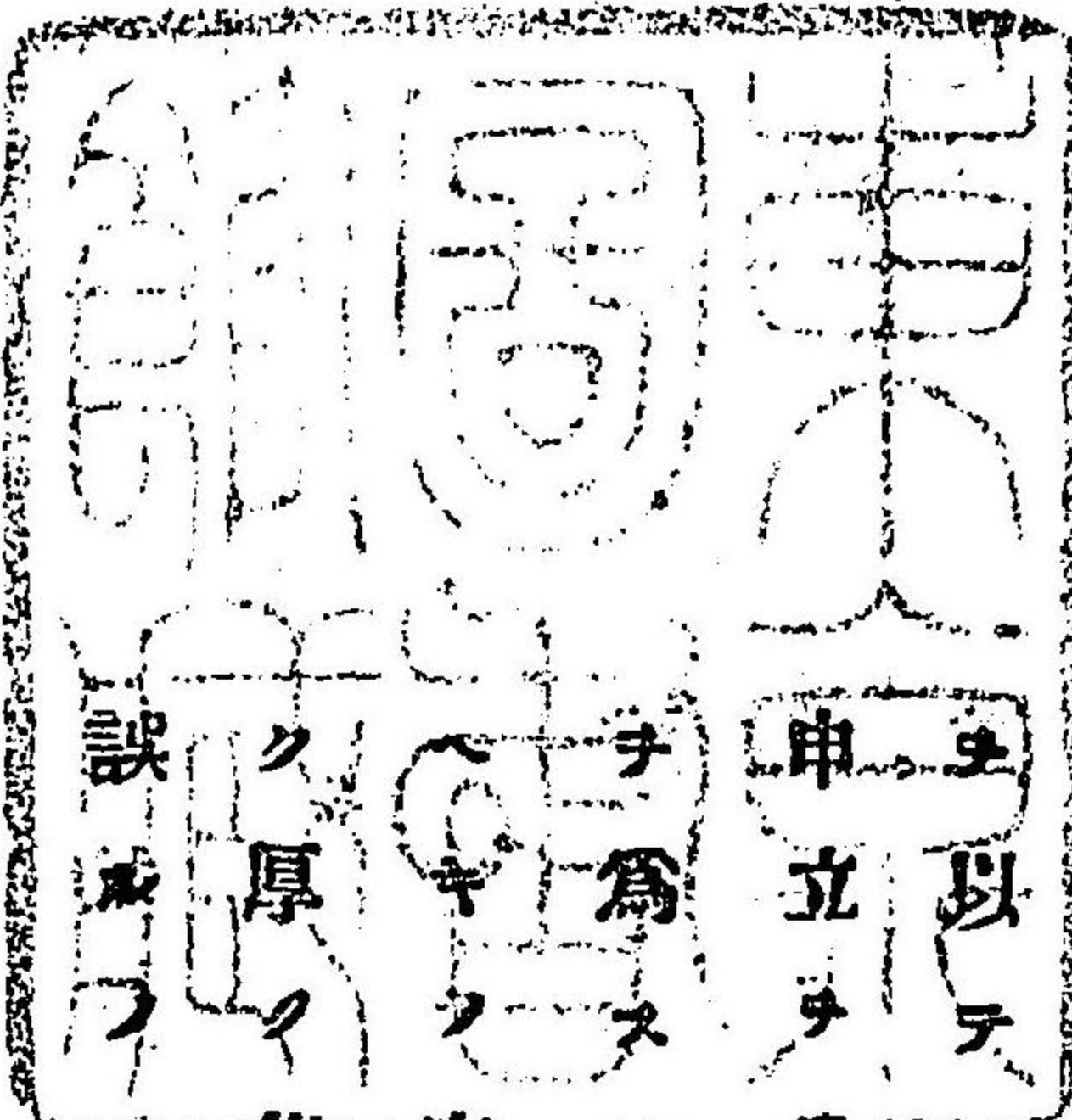
本條ノ罪ニハ三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク證人タルコト
曰ク被告人ヲ曲庇スルノ意アルコト曰ク事實ヲ掩蔽ス
ルコト是レナリ左ニ逐次之ヲ辨スヘシ

〔三〕〇刑事ニ關スル證人トハ刑事ニ付キ治罪法ノ規則ニ從
ヒ正實ニ陳述スヘキノ宣誓ヲ爲シ然ル後其見聞セシ事
柄ヲ陳述スル所ノ者ナイフ故ニ單ニ事實參考ノ爲メ陳
述ヲ爲ス者ハ本條ノ正面ニ當ラサルナリ

或曰ク治罪法第三編第三章第五節ニ證人訊問ト題シ而
シテ其節ニ宣誓ヲ爲シテ陳述ヲ爲ス者ト事實參考ノ爲
メ陳述ヲ爲ス者トニ關スル規則ヲ定メタルニ因テ之ヲ
考フレハ證人ノ語ハ其義廣ク宣誓ノ有無ヲ問ハス裁判
所ニ出テ事實ヲ陳述スル者ハ悉ク之ヲ合セ稱スルカ如
シト蓋シ非ナリ實ニ治罪法ニ於テハ證人訊問ノ節ニ事
實參考人ニ關スル規則ヲ定メタリト雖モ是レ唯證人ニ
關スル規則ト事實參考人ニ關スル規則トハ相通用スヘ
キモノ多ク其性質亦大ニ類似スル所アルカ故ナリ而シ
テ證人トハ宣誓ヲ爲シテ陳述スル者ニ限レルコトハ同
法第百八十一條及ヒ第百八十二條ニ左ニ記載シタル者
ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ

聽クテ得トアルニ因テ明了ナリトス故ニ本條以下ニ所謂證人トハ宣誓ヲ爲シタル者ニ限ラサルヘカラサルナリ加之道理上ヨリ論スルモ亦此ノ如クナラサルヘカラス何トナレハ宣誓ヲ爲シタル者ハ正實ニ陳述ヲ爲スヘキ者ナレハ其者不實ノ事柄ヲ申立ツルトキハ其害大ナルモ事實參考人ノ如キハ初ヨリ正實ニ陳述ヲ爲スヘキノ宣誓ヲ爲サズ裁判官亦之ヲ正實ナリトシテ聽クモノニ非サレハ縦ヒ不實ノ事ヲ申立ツルモ其害少ナケレハナリ

○或問テ曰ク證人ト爲ルヘカラサル者宣誓シタル後偽證ヲ爲シタルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク此點ハ義ニ治罪法釋義ニ於テ開説シタリト雖モ事全ク刑法ニ屬スル



主以テ更ニ此ニ之ヲ論スヘシ抑刑法ニ於テ證人不實ノ申立ヲ爲シタルトキ之ヲ罰シテ事實參考人不實ノ申立ヲ爲スト雖モ之ヲ罰セサルハ是レ證人ハ正實ニ陳述スヘキノ宣誓ヲ爲シタル者ナレハ裁判官其陳述ニ信ヲ措ク厚ク從テ其者不實ノ申立ヲ爲ストキハ爲メニ裁判ヲ誤成フ恐アリト雖モ之ニ反シテ事實參考人ハ此宣誓ヲ爲サ、ルヲ以テ裁判官其陳述ニ信ヲ措カス其之ヲ採用スルハ其陳述シタル所他ノ證據徵憑ニ照シテ正實ナルコトヲ認メタルカ故ニシテ其人ヲ信スルカ故ニ非サレハ其者不實ノ申立ヲ爲スモ爲メニ公益ヲ害スルコトナシト爲シタルカ故ナリ由是觀之證人ト爲ルノ資格ヲ有セサル者其實ヲ蔽フテ宣誓シ裁判官モ亦其證人ト爲ル

チ得サルモノナルヲ知ラサル場合ニ於テ偽證ヲ爲シタルキハ之ヲ罰セサルヘカラス他無シ裁判官其陳述ニ信ヲ措ク厚ク從テ公益ヲ害スル大ナレハナリ佛朗西國千八百四十三年六月二十九日附大審院判決ニ曰ク無能力者其無能力ナルコトヲ掩蔽シ宣誓ヲ爲シテ被告ノ害ト爲ルヘキ陳述又ハ其利ト爲ルヘキ陳述ヲ爲シタル者ハ其無能力ナル旨ヲ申立テ、偽證ノ罪ヲ免ガル、チ得ス是レ此ノ如ク宣誓シテ爲シタル陳述ハ其實事實參考ノ力ヲ有スルニ止マルヘキモノナルモ完全ナル證人陳述ノ形跡ト實力トチ有シ之ヲ以テ裁判所チ欺クヘキ心證ノ具ト爲シタルモノナレハナリ故ニ此所爲タル誓ヲ破フルコト、故ラニ實ヲ變スルコト、害ノ生シ得ヘキ

不能

コト、ニ因テ成ル所ノ偽證ノ性質ヲ有スルモノナリト寔ニ至當ノ判決トイフヘシ然レトモ自己ノ罪ヲ免カレシカ爲メニ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ一概ニ論スルチ得サルカ如シ此點ハ第二條件チ説クニ當リテ之チ詳説スヘシ

〔三〕○被告人チ曲庇スルトハ或ハ罪ヲ免カレシメンカ爲メ或ハ罪ヲ輕カラシメンカ爲メ曲ケテ被告人チ保庇スルチイフ若シ夫レ被告人チ曲庇スルカ爲メニ非サルトキハ本條ニ依リ之チ處斷スルチ得ス之チ陷害スル爲メナルトキハ第二百二十條ニ依テ處斷スヘキナリ又被告人チ保庇スルノ意アリト雖モ其實之チ保庇スルノ効チ生セス若クハ効チ生シ得ヘカラサルモノナルトキハ其罪

ナレトス是レ曲庇ノ効チ生シ得ヘキモノニ非サレハ之
ヲ罰スルノ要ナケレハナリ

或問テ曰ク證人自己ノ罪ヲ免カレンカ爲メ偽證ヲ爲
タルトキハ如何處分スヘキ乎ト曰ク自己ノ罪ヲ免カ
レンカ爲メ被告ナヲ陷害スルコトアルモ之カ爲メ被告
人ナ曲庇スルコトハ實際甚々稀ナルヘシ然レトモ亦未
ダ決テ之レナシトイフヘカラス例ヘハ茲ニ未ダ訴テ受
ケサル共犯人若クハ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケタル
共犯人アリ證人ト爲リ裁判所ニ召喚セラレタリ裁判官
之ニ問フニ被告人ハ一名ニテ某罪ヲ犯シタル乎若シ二
名ニテ犯シタルモノナラハ他ノ一名ヲ指摘セヨトノ言
ヲ以テシタル場合ニ於テ被告人ハ二名ニテ犯シタリ其

一名ハ即チ自分ナリト答フルトキハ已レ訴テ受クルノ
恐レアルカ故ニ二名ニテ犯シタルモノニ非スト偽證ス
ルコトノ如キ實際之レナキヲ保セサルナリ今此場合ニ
於テ之ヲ偽證トシテ罰スヘキ乎之ヲ罰スルハ法律上人
ヲシテ強テ自己ノ罪ヲ言ハセムルト同一ノ結果ヲ生ス
ルモノナレハ能ク其理ニ適シタリトイフヲ得ス而カモ
法律ニ之カ特例ヲ定メサル以上ハ之ヲ不問ニ付スルコ
ト亦難カルヘシ然レトモ證人ノ主トスル所ハ被告人ヲ
曲庇スルニ在ラスシテ自己ノ辯護ヲ爲スニ在レハ寧ロ
本條ノ罪ヲ構造スルニ闕クヘカラサル曲庇ノ意思ナキ
モノトシテ之ヲ罪セサル方蓋シ允當ナルヘシ

〔四〕〇事實ヲ掩蔽シテ偽造ヲ爲ストハ其見聞シタル所ノ事

實ヲ掩蔽蔽覆シテ虚偽ノ陳述ヲ爲スナレバ故ニ白ヲ認
 テ黒ト爲スカ如キトキノミ其罪アルニ非ス被告ハナ曲
 庇スルノ意ヲ以テ見聞セシ事柄ノ五分或ハ六分ヲ陳述
 シ其他ノ事柄ヲ掩蔽シタル者亦偽證ノ罪アリトス彼ノ
 宣誓ノ式ニ正實ニ陳述ストアルハ其見聞セサル事柄ヲ
 陳ヘス又其見聞シタル事柄ヲ悉ク陳フルチイフモノナ
 レハ直接ニ其實ヲ變セスト雖モ其見聞シタル所ヲ悉ク
 陳ヘスシテ間接ニ其實ヲ變シタル者モ亦其罪アリトセ
 サルヘカラサルナリ然レトモ此點ニ付テハ一ノ難問ア
 リ證人裁判官ノ問ニ對シ其見聞シタル事柄ヲ偽テ見聞セ
 スト陳ヘタルトキノミ其罪アリトスル乎將タ裁判官ニ
 於テ漠然證人ニ向ヒ其見聞シタル所ヲ悉ク陳フヘシト
 命シ證人其中ノ一分ヲ陳ヘテ他ノ一分ヲ陳ヘサルトキ
 モ亦其罪アリトスヘキ乎ノ點是レナリ今此點ヲ決セン
 ト欲セハ先ツ證人訊問ノ法ヲ説カサルヘカラス凡ソ證
 人ヲ訊問スルノ法ニ二アリ一ハ事件全體ニ付キ其見聞
 シタル事柄ヲ訊問スルモノニシテ一ハ一事件中ノ特定
 セル點ニ付キ之ヲ訊問スルモノナリ而シテ事件全體ニ
 付キ訊問ヲ爲ス場合ト雖モ裁判官ニ於テ逐次其聽カン
 ト欲スル所ノ點ヲ舉示シテ之ヲ訊問スルコトアリ故ニ
 特定セル點ノ訊問ヲ受ケ又ハ事件全體ニ關スルト雖モ
 裁判官ヨリ事柄ヲ指定シタル訊問ヲ受ケタル證人ハ其訊
 問外ノ事柄ヲ陳ヘサルモ之ヲ罪トスルチ得ス然レトモ
 單ニ其見聞セシ事柄ヲ悉ク陳フヘシト命セラレタル證

人ニシテ被告人ヲ曲庇セント欲シ以テ其一分ヲ掩蔽シ
タルトキハ偽證ノ罪ヲ免カルヘカラサルナリ然レトモ
此第二ノ場合ニ於テハ實際裁判官タル者カメテ他ニ陳
述スヘキコトナキヤ否ヲ問窮スヘキナリ

1901
4月12日
1901

○或問テ曰ク證人全ク陳述ヲ肯セサルトキ又ハ一分ノ
陳述ヲ肯セサルトキハ如何ト曰ク全ク陳述ヲ肯セサル
トキハ之ヲ偽證ト爲スヲ得ス唯第百八十條ニ依リ之ヲ
罰スヘキノミ是レ未ダ一層ノ證言ヲ爲サ、ルモノナレ
ハナリ然レトモ若シ裁判官ノ問ニ對シ知レル事柄ヲ知
ラスト答ヘタルトキハ是レ全ク陳述ヲ肯セサルコト非ス
即チ偽リノ陳述ヲ爲シタルモノナレハ偽證トシテ之ヲ
罰スルヲ得ヘシ一分ノ陳述ヲ肯セサルトキ亦同シ例ヘ

ハ某ノ事柄ヲ見聞シタリト陳ヘ而シテ其日時ヲ陳述ス
ルヲ欲セスト申立テタルトキノ如キハ故ナク陳述ヲ肯
セサルノ罪アルノミ之ヲ偽證トスルコトヲ得ス然レト
モ若シ其申立ヲ肯セサルカ爲メ其申立テタル部分ノ不
實ト爲ルヘキ場合ニ於テハ之ヲ偽證ト爲サ、ルヲ得ス
例ヘハ某所ニ於テ人アリ夜某ヲ殺害シタルヲ見タリ其
模様ハ云々ナリシト陳ヘ而シテ其殺害者タル現ニ訴テ
受ケタル被告人ナルコトヲ知ルト雖モ之ヲ保庇センカ
爲メ故ラコソノ誰タルコトヲ陳述スルヲ欲セスト申立
テ暗ニ裁判官ヲシテ其犯人ハ現ニ訴テ受ケタル被告人
ニ非サルトノ感覺ヲ惹起セシメントシタル者ノ如キハ
之ヲ偽證トシテ罰スルヲ得ヘキナリ

○或又問テ曰ク證人ノ掩蔽シタル事實ハ罪及ヒ加重減
 輕ノ模様ヲ證明スルニ必要ナルモノナルト否トヲ問ハ
 サル乎ト曰ク前既ニ開説シタル如ク偽證ノ罪ニ付テモ
 害ノ因テ生シ得ヘキコトヲ以テ必要ナル條件ト爲スカ
 故ニ其掩蔽シタル事實罪及ヒ加重減輕ノ模様ヲ證明ス
 ルニ必要ナルモノニ非サルトキハ之ヲ罰スヘカラス是
 レ此場合ニ於テハ害ノ因テ生シ得ヘカラサルモノナレ
 ハナリ然レトモ實際上其必要ナルモノナルト否トヲ區
 別スルノ外豫メ某々ノ事柄ハ必要ナリ又某々ノ事柄ハ
 必要ナラスト定ムルヲ得ス例ヘハ年齢ニ付キ十八年ヲ
 僞テ十七年若クハ十九年ト申立ツルモ其刑ニ影響ヲ及
 ホサルカ故ニ必要ナラス二十一年ヲ僞テ十九年ト申
 立ツルトキハ其刑ニ影響ヲ及ホスカ故ニ必要ナルノ類
 ナリ此他實際上其事件ノ性質ト取調ノ模様トニ因リ或
 ハ必要ト爲リ或ハ必要ト爲ラスト雖モ其必要ナルトキ
 ハ之ヲ罰シ否ヲサルトキハ之ヲ罰セサルノ原則ニ至テ
 ハ之ヲ豫定スルヲ得ヘク必ス之ニ從ハサルヘカラサル
 ナリ

〔五〕○本條ニ於テハ僞證ノ目的トスル所ノ事件ノ大小輕重
 ニ因テ刑ノ輕重ヲ設ク是レ罪ニハ重罪輕罪違警罪ノ區
 別アリテ其目的トスル所ノ事件大ナレハ其害亦從テ大
 ニ其目的トスル所ノ事件小ナレハ其害亦從テ小ナルカ
 故ナリ即チ重罪犯人ヲ免カレシムルト輕罪犯人ヲ免カ
 レシムルト又輕罪犯人ヲ免カレシムルト違警罪犯人ヲ

免カレシムルルトハ其社會公益ヲ害スルニ輕重大小ノ
 差アル一目的然タルカ故ニ其目的トスル罪ノ種類ニ因
 リ偽證ノ刑ニ輕重ヲ設ケタルナリ然ルニ此ニ一ノ疑ア
 リ證人偽證ヲ爲スニ當リ其目的トスル所ノ罪ノ種類ヲ
 辨セシコトヲ必要ナリトスル乎ノ點是レナリ尙ホ之ヲ
 詳言セハ證人重罪犯人ヲ曲庇セシカ爲メ偽證ヲ爲シ其
 被告人タル果テ重罪犯人タルトキノミ之ヲ本條第一ニ
 依リ罰スルモノニシテ證人ニ於テ輕罪犯人ナリト信シ
 タルトキハ其實重罪犯人タルモ仍ホ本條第二ニ依リ罰
 スヘキ乎トイフニ在リ余謂テ重罪輕罪違警罪ノ稱ハ
 法律上付スル所ノ名ニシテ其實ニ非ス故ニ證人ニ於テ
 其曲庇セントスル罪ノ何事件タルヲ知リ而シテ其罪タ

此の罪は
 偽證罪に
 依るものと
 され

ル果テ證人ニ於テ信シタル所ノモノナルトキハ其事件
 ノ重罪タルト輕罪タルトヲ案シ本條ノ區別ニ從テ之ヲ
 罰スヘク又其事件タル證人ニ於テ信シタル所ノモノヨ
 リモ輕キトキハ其輕キニ從ヒ又重キトキハ證人ノ信シ
 タル所ニ從ヒ罰スヘク證人ニ於テ其事件ノ重罪タルト
 輕罪タルトヲ知ルヲ要セサルナリ

〔六〕○或問テ曰ク事實參考人事實ヲ掩蔽シテ申立ヲ爲シタ
 ルトキ之ヲ罰セサルハ果テ能ク其當ヲ得タルモノナル
 乎ト曰ク爰ニ開說シタル如ク證人ハ正實ニ陳述スヘキ
 ノ誓ヲ爲シタル後事ヲ陳フルモノナレハ其詐陳ヲ爲ス
 トキハ公益ヲ害スル大ナリ之ニ反シ事實參考人ハ此誓
 ヲ爲サル者ナレハ縱ヒ詐陳ヲ爲スモ證人ノ如ク公益

ナ害スル大ナラス故ニ彼此ヲ同一ノ刑ニ處スル能ハサ
 ルヤ勿論ナリ然レトモ亦全ク之ヲ不問ニ付スヘキモノ
 ニ非ス事實參考人ハ事ノ眞實ヲ證スルノ義務ナキ者ナ
 レハ其詐陳ヲ爲スモ之ヲ詐僞トセズ乃チ異性質ノ罪ト
 シ一等若クハ二等ヲ減シテ之ヲ罰スルヲ可トス是レ宣
 誓ヲ爲サハル者ト雖モ裁判所ニ出テ惡意ヲ以テ不實ノ
 事ヲ陳述シタルトキハ多少公益ヲ害スルカ故ニ必スシ
 モ之ヲ罰セサルヘカラサレハナリ然レトモ此點ニ付テ
 ハ少ク例外ヲ設ケサルヘカラス治罪法第百八十二條第
 二第三ニ定メタル者ヲ取除シヘキハ勿論亦第六ニ定メ
 タル者及ヒ第百八十一條ニ定メタル者ヲ取除ケサル
 ヘカラス即チ被告ハ親屬後見人雇人及ヒ被告人ノ後
 見ヲ受クル者及ヒ現ニ陳述ヲ爲スヘキ事件ニ付キ訴テ
 受ケ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者
 ハ被告人ヲ曲庇スルモ之ヲ罰スヘカラス然レトモ被告
 人ヲ曲庇センカ爲メ他人ヲ陷害シタルトキハ格別ナリ
 トス此點タル明了一点ノ疑ヲ容レスト雖モ民事原告人
 及ヒ其親屬後見人雇人若クハ民事原告人ノ後見ヲ受ク
 ル者被告人ヲ陷害シタルトキ之ヲ不問ニ付スヘキヤ否
 ノ點ニ付テハ少ク疑ナキ能ハス思フニ此場合ニ於テハ
 之ヲ罰スル方蓋シ允當ナルニ庶幾カラシカ何トナレハ
 自己ノ利益ヲ保護センカ爲メニ出ルト雖モ濫リニ人ヲ
 陷害スルハ法ノ許スヘキモノニ非サレナリ

○佛刑法第三百六十一條 五月八日十月三十日改三年 何人ニ限ラ

又重罪事件ニ付キ被告人ニ對シ又ハ其利益ニ偽證
ヲ爲シタル者ハ懲役ニ處セラルヘシ

然レトモ若シ被告人懲役ヨリモ重キ刑ニ處セラレ
タルトキハ之ニ對シテ偽證ヲ爲シタル者ハ同一ノ
刑ヲ受クヘシ〔刑〕七、三〇以下、二八至三一、三四、三六、四

同第三百六十二條

五月八日改三年

何人ニ限ラス輕

罪事件ニ付キ被告人ニ對シ又ハ其利益ニ偽證ヲ爲
シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮及ヒ五十「フ
ラ」以上二千「フラン」以下ノ罰金ニ處セラルヘシ
然レトモ若シ被告人五年ヨリ多キ禁錮ニ處セラレ
タルトキハ之ニ對シテ偽證ヲ爲シタル者ハ同一ノ
刑ヲ受クヘシ

何人ニ限ラス違警罪事件ニ付キ被告人ニ對シ又ハ
其利益ニ偽證ヲ爲シタル者ハ一年以上三年以下ノ
禁錮及ヒ十六「フラン」以上五百「フラン」以下ノ罰
金ニ處セラルヘシ

二箇ノ場合ニ於テ犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル
日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條
ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラレ且同一ノ年限間監
視ニ付セラル、コトアルヘシ〔刑〕九、一、四〇以下、五
一七九、

同第三百六十四條

五月八日改三年

重罪事件ノ偽證

人金圓其他ノ賞品ヲ受ケ又ハ其約束ヲ聽許シタル
者ハ有期徒刑ニ處セラルヘシ但第三百六十一條第

二項ヲ適用スルノ妨ケト爲ルコトナカルヘシ〔刑〕七、五、一、六、三、六、四、七、以下、二、八、至、三、一、
 輕罪事件ノ偽證人金圓其他ノ賞品ヲ受ケ又ハ其約
 束ヲ聽許シタル者ハ懲役ニ處セラルヘシ〔刑〕七、二、一、
 至、三、一、三、四、
 三、六、四、七、
 違警罪事件ノ偽證人金圓其他ノ賞品ヲ受ケ又ハ其
 約束ヲ聽許シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮及
 ヒ五十「フランク」以上二千「フランク」以下ノ罰金ニ處
 セラルヘシ〔刑〕九、四、〇、以下、五、八、
 五、二、以下、五、八、
 犯人ハ又第三百六十三條ニ記載シタル附加刑ヲ受
 シヘシ
 何レノ場合ニ於テモ偽證人ノ受ケタル者ハ沒収セ

ラルヘシ〔刑〕一、一、

第二百十九條

偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者
ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

- 一 本條ノ解〇正當ノ刑トハ果テ何ヲ指ス乎
- 二 被告人正當ノ刑ヲ免カレタルト否トハ何ニ依テ
之ヲ辨知スヘキ乎附本條ヲ削除スヘキノ說

〔一〕〇本條ハ偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタルトキ
 ハ偽證者ノ刑ヲ加重スヘキ旨ヲ定ム
 偽證ノ罪ハ證人裁判所ニ向テ詐陳ヲ爲シタルニ成ル故
 ニ其罪タル詐陳ヲ爲シタルヤ既ニ之ヲ遂ケタルモノニ
 シテ偽證果テ其效ヲ生シタルト否トヲ問ハサルナリ然

レトモ偽證其效ヲ生シタルトキハ其害亦從テ大ナリト
 ス故ニ此場合ニ於テハ前條ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘテ之
 ナ罰スヘシト定メタリ
 被告人正當ノ刑ヲ免カレタルトハ被告人罪ヲ犯シテ無
 罪免訴ノ言渡ヲ受ケ又ハ相當ノ刑ヨリ輕キ刑ノ言渡ヲ
 受ケタルチイフ而シテ證人被告人ヲシテ全ク其刑ヲ免
 カレシメント欲シタル場合ニ輕キ刑ノ言渡アリ又ハ其
 刑ヲ輕フセント欲シタル場合ニ無罪免訴ノ言渡アリタ
 リト雖モ仍ホ本條ニ依リ其刑ヲ加重スヘキナリ
 ○或問テ曰ク證人巧ニ偽證ヲ爲シタルカ爲メ裁判官
 ノ感覺ヲ動カシ遂ニ酌量減輕ノ言渡アリタルトキ及ヒ
 酌量減輕ノ言渡ナシト雖モ裁判官之カ爲メニ長期多數

ニ處スヘキ犯人ニ對シ短期寡數ヲ言渡シタルトキハ本
 條ニ依リ證人ノ刑ヲ加重スヘキ乎ト或之ニ答ヘテ曰ク
 正當ノ語タル確乎不易ノ謂ニシテ夫ノ甲者ノ見テ以テ
 正當トスル所乙者ハ之ヲ正當トセサルカ如キ漠然トシ
 テ津涯ナキモノニ非ス今法律ニ定メタル最上點ト最下
 點トノ間ヲ出テサレハ之ヲ正當ノ刑トイフヘキ乎將タ
 其間ヲ出テサルモ裁判官ノ見テ以テ至當ナリトスル所
 ヨリ輕キ點ニ處セラレタルトキハ之ヲ不正當ノ刑トイ
 フヘキ乎最上點最下點ノ間ニ在テ當行スヘキ刑ヲ撰定
 スルハ裁判官ノ特權ニシテ而シテ法律ニ之カ理由ヲ定
 メサレハ今日正當トスル所ノモノ明日之ヲ不正當トスル
 コトアリ又夕ヘニ不正當トセシ所ノモノ朝タニ之ヲ正當

トスルコトアリ此ノ如ク變遷極リナキモノヲ以テ確乎
 不易ナルコトヲ要スル正當ノ刑トスルヲ得ス故ニ裁判
 官ノ最上點ニ處セント欲セシモ其偽證ノ爲メ最下點ニ
 處シタルノミニテハ之ヲ正當ノ刑ヲ免カレタルモノト
 スルヲ得サルナリ然レトモ酌量減輕ハ本刑ヨリ一等又
 ハ二等ヲ減スルモノナレハ若シ偽證ノ爲メ酌量スヘカ
 ラサル者ニ其減輕ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ正當ノ刑
 ヲ免カレタリトイフヘキナリト最上點最下點ノ間ニ在
 ルモノハ必スシモ不正當ノ刑ニ非ストノ點ハ余亦其意
 ナ同フスト雖モ酌量減輕ノ點ニ至テハ少ク異論ナキ能
 ハス實ニ酌量減輕ハ本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スルモ
 ノナリト雖モ酌量減輕シタル刑モ亦其罪ニ適當ナル刑
 ニシテ之ヲ指シテ不正當ナル刑トイフヲ得ス夫ノ法律
 上ノ減輕例ヘハ未遂犯ノ場合ニ於テ一等ヲ減スヘキ場
 合ニ二等ヲ減シタル如キ亦之ヲ不正當ノ刑トイフヲ得
 サルナリ請フ例證ヲ籍テ之ヲ明カコセン治罪法第四百
 三十五條ニ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ノ語
 アリ今酌量減輕スヘキ場合ニ酌量減輕ヲ爲サス又ハ二
 等ヲ減スヘキ未遂犯ノ場合ニ一等ノ外減セサルヲ理由
 トシテ非常上告ヲ爲スヲ得ヘキ乎何人ト雖モ其能ハサ
 ルヲ知ラン何ッヤ是レ酌量減輕ヲ爲スモ之ヲ爲サ、ル
 モ其刑ノ相當ナルヲ失ハス又一等ヲ減スルモ二等ヲ減
 スルモ其刑ノ不當ナルコトナケレハナリ而シテ本條ニ
 所謂正當ノ刑トハ治罪法第四百三十五條ニ所謂相當ノ

刑ト同一義ナレハ其解亦同一ナラサルヘカラサルナリ」

〔三〕〇本條ニ付キ一ノ疑問アリ曰ク被告人正當ノ刑ヲ免カレタリト否トハ果テ何ニ依テ之ヲ辨別スヘキ乎ノ點是レナリ此問題タル治罪ノ原則ニ關涉スルヲ以テ事他岐ニ入ルカ如シト雖モ今此ニ之ヲ論スルノ最モ必要ヲ感シタリ抑此問題タル強チ本條ニ就テ生スルモノニ非ス前條ニ就テモ亦既ニ生シ得ヘキモノナリ何トナレハ曲庇ノ罪ハ被告人罪アル場合ニ成立スルモノナレハ曲庇ノ罪ヲ論セント欲セハ被告人ノ罪アルコトヲ認メサルヘカラサレハナリ然レトモ實際曲庇ノ罪ハ被告人ノ裁判ヲ爲シタル後之ヲ斷定スルヲ以テ前條ニ就テハ別ニ難事ナシト雖モ本條ハ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル後ニ係ルカ故ニ實際被告人ノ罪アルコト及ヒ果テ其正當ノ刑ヲ免カレタリヤ否ヤヲ審判スルコト殊ニ困難ナリトス何トナレハ罪ノ有無及ヒ其輕重ハ其人ニ就テ取調ヲ爲スニ非サレハ之ヲ確知スル能ハス然ルニ一旦裁判ヲ受ケタル者ハ更ニ同一ノ事件ニ付キ之ヲ審問スル能ハサルヲ以テ實際之ヲ確知スルヲ得サレハナリ佛法ニ本條ト同一ノ規則ヲ設ケサルハ蓋シ此ニ原ケルナラン乎又假令實際罪ノ有無及ヒ其輕重ヲ確知シ得ヘシト爲スモ本條ニ依リ偽證者ノ刑ニ一等ヲ加ヘント欲スルトキハ必ス其裁判言渡ニ此旨ヲ明示セサルヘカラス之ヲ明示スルトキハ爲メニ既ニ無罪免訴又ハ輕キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ名譽ヲ害スルニ至ルヘシ此レ法理ノ許

サ、ル所ナルノミナラス亦吾カ治罪法ノ精神ニ反スル
モノナリ然レトモ此條アル以上ハ實際不充分ナカラモ
既ニ裁判ヲ受ケタル者ヲ審問スルコトナシ他ノ證據ニ
因リ其罪ノ有無及ヒ其輕重ヲ判定セサルヘカラサルヘ
シ以上論シタル如ク此法タル能ク其當ヲ得タルモノト
イフヲ得サレハ余ハ立法官ニ向テ本條ノ削除アラシ
トヲ希望スルモノナリ

第二百二十條

被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ
照シテ處斷ス〔刑〕三五五、

一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ二年以上
五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六月以上
二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ一月以
上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

一 本條ノ解ニ何故ニ違警罪ニ陷ル、爲メ偽證シタ
ル者ヲ輕罪ノ刑ニ處スル乎

二 裁判所ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルモ偽證者
ハ其刑ヲ免カル、ヲ得サル乎

〔一〕〇本條ハ被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ノ罪

ヲ定ム

本條ノ罪モ亦曲庇ノ罪ト同ク三箇ノ條件ヲ必要トス曰ク證人タルコト曰ク被告人ヲ陷害スルノ意アルコト曰ク事實ヲ掩蔽スルコト是レナリ其第一條件及ヒ第三條件ハ曩ニ第二百十八條ニ於テ開説シタル所ト相同シキヲ以テ此ニ之ヲ復説セスト雖モ第二ノ條件ハ彼此全ク相反スルモノナレハ少ク之ヲ論スヘシ被告人ヲ陷害スルトハ無罪ヲ有罪ト爲シ又ハ輕キ罪ヲ重キ罪ト爲スチイフ彼ノ被告人ヲ曲庇スルトハ全ク相反スルモノナリ故ニ其情亦曲庇ノ罪ヨリ重シトス何トナレハ有罪ヲ釋スハ其害ナキコ非スト雖モ社會人民ニ之ヲ分當スルトキハ其負擔スル所輕シト雖モ之ニ反シ無辜ヲ罰スルト

キハ被告人一人ニテ全然其害ヲ負擔スヘキモノナレハナリ是レ陷害ノ刑ノ曲庇ノ刑ニ比シテ數等ノ重キヲ加フル所以ナリ

又本條ニ於テモ犯人ノ目的ニ從テ重罪輕罪違警罪ヲ區別シ刑ニ輕重ノ差等ヲ設ケタリ是レ其事件ノ大小ニ因リ社會ノ公害ニ輕重ノ別アルカ故ナリ而シテ前ニ開説シタル如ク陷害トハ強ク無罪ヲ有罪ト爲スノミナラス輕キ誣テ重ト爲スコトモ亦其中ニ包含スレハ輕罪ヲ重罪ナリト陷害シタルトキモ亦本條第一ニ依リ處斷スヘキナリ

○或問テ曰ク前條ニ於テハ違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ之ヲ違警罪ノ刑ニ處シ本條ニ於テハ違

警罪ニ陥ラシムル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ之ヲ一月以上三月以下ノ重禁錮二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ違警罪ノ刑ニ處セサルハ前後少ク權衡ヲ失スルニ非スマヤト曰ク否有罪ヲ釋スト無辜ヲ罪スルトハ其差霄壤モ猶ホ管ナラス今曲庇者ヲ罰スルニ違警罪ノ刑ヲ以テシ陷害者ヲ罰スルニ輕罪ノ刑ヲ以テシタルハ秩然トシテ繩墨アリトイフヘキナリ

証人ハ其結果ノ如何ヲ問ハズ之ヲ罰ス故ニ裁判所ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルモ一旦偽證ヲ爲シタル者ハ其刑ヲ免カルハ得サル乎ト或之ニ答テ曰ク裁判所ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲ストキハ則チ訴訟事件ニ付キ全ク關係ヲ絶ツモノニシテ其以往ニ行

ヒタル處分ハ皆ナ自ラ消滅ニ屬ス即チ未ダ其事件ニ付キ取調ヲ爲サ、ルト殆ト相同シ故ニ證人偽證ヲ爲スモ其後管轄違ノ言渡アルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得サルヘシ且概テ本案事件ノ裁判アルニ非サレハ偽證ノ罪定マルコトナシ果テ被告人ノ罪アルコトヲ確認スルニ非サレハ證人ノ之ヲ曲庇シタルコトヲ判シ難ク又其被告人ノ無罪若クハ輕キ罪ヲ犯シタルニ過キサレコトヲ證明スルニ非サレハ陷害ト否トヲ別チ難シ因テ管轄違ノ言渡アリタルトキハ前ニ爲シタル偽證ノ罪ヲ問フヘカラスト余謂ヘラク裁判所ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲スモ必スシモ其處分皆ナ悉ク消滅ニ歸スルモノニ非ス證人陳述ノ如キハ管轄裁判所ニ於テ之ヲ資テ其心證ヲ紬起

スルノ用ニ供スルコトアリ是レ既ニ人ノ認メテ疑ヲ容
 レサル所ナリ且偽證ノ罪タル其結果ノ如何ヲ問ハス之
 ナ罰スルモノニシテ未遂犯ノトキ既ニ本罪ヲ爲スモノ
 ナレハ他日管轄違ノ言渡アルモ一旦偽證ヲ爲シタル者
 ハ其刑ヲ免カルヘカラサルナリ加之實際裁判所ニ於テ
 管轄違ノ言渡ヲ爲スニ付キ偽證其影響ヲ及ホスコトア
 リ而モ仍ホ之ヲ罰セストスルハ決テ其當ヲ得タルモノ
 ニ非サルナリ今此問題ヲ解スルトキハ他ノ相類スル數
 多ノ問題ヲ決スルヲ得ヘシ控訴裁判所ニ於テ原裁判ヲ
 改メタルトキ大審院ニ於テ原裁判ヲ破毀シタルトキノ
 類皆ナ之ニ準レテ解スヘキナリ
 右ノ一問ハ陷害ノ場合ノミニ生スルモノニ非ス曲庇ノ

場合ニモ亦生スルモノナリ而シテ其解タル亦彼此ノ場
 合ニ於テ全ク同一ナリトス唯之ヲ第二百十八條ニ掲ク
 ヘキヲ遺忘シタルカ爲メ此ニ之ヲ拾收シタルノミ

○佛刑法第三百六十一條 第三百十八條ニ全文ヲ掲ク

同第三百六十二條 同上

同第三百六十八條 同上

第二百二十一條

偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ
 罪發覺シタル時ハ偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ
 刑前條ニ記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例
 ニ照シテ處斷ス刑二八六、三五七
 其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過

シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スヲ得同上

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ偽證ノ結果ニ因リ陷害者ノ刑ヲ加重スルノ法ヲ定ム

第二百十九條ニ於テ開説シタル如ク偽證ノ罪ハ其害ヲ生シ得ヘキヲ以テ成リ必スシモ害ノ因テ生シタルヲ必要トセス若シ夫レ之カ爲メニ害ノ生シタルトキハ加重ノ模様アルカ故ニ其刑ヲ加重スヘキコト蓋シ當然ノ理ナリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

〔二〕〇第一項 本項ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルトキノ規則ヲ定ム

偽證ノ罪被告人刑ノ言渡ヲ受ケサル前ニ於テ發覺シタルトキハ裁判官偽證ヲ資テ其心證ニ供セサルカ故ニ普通偽證ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルニ過キスト雖モ被告人偽證ノ爲メニ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ偽證其效ヲ生シタルモノナレハ必ス之ヲ嚴罰セサルヘカラス本項ニ於テハ偽證者ヲ其刑ニ反坐スヘシト定メタリ然レトモ反坐ノ刑或ハ偽證ノ刑ヨリ輕キコトナキヲ必スヘカラス此場合ニ在テ仍ホ反坐ノ刑ヲ用フヘシトセハ偽證其效カチ生シタルカ爲メ却テ輕キ刑ヲ受クルニ至ルノ不權衡ヲ來サン故ニ反坐ノ刑偽證ノ刑ヨリ輕キトキハ前條

ノ例ニ照シテ處斷スヘシト定メタリ
 然レトモ余思フニ反坐ノ刑偽證ノ刑ヨリ輕キトキハ前
 條ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スル方蓋シ允當ナル
 ヘシ何トナレハ偽證全ク其效ヲ生シタルトキト偽證未
 ダ其效ヲ生セサルトキト其刑ヲ同フスルノ理アラサレ
 ハナリ因テ立法官此點ヲ改正セラレンコトヲ希望ス
 本項ニ付キ最モ注意ヲ要スルモノハ偽證ノ爲メ被告人
 刑ニ處セラレタルコト是レナリ若シ被告人ヲ陷レンガ
 爲メ偽證ヲ爲シタリト雖モ其實被告人罪アリテ裁判所
 ノ言渡其當ヲ得タルモノナルトキハ被告人偽證ノ爲メ
 ニ刑ノ言渡ヲ受ケタリトイフヲ得ヌ又裁判官ニ於テ偽
 證者ノ陳述ニ毫モ信ヲ措カス他ノ證憑ニ依リ偽證者ノ
 證スル所ヨリモ輕キ刑ヲ言渡シタルトキ亦同シ故ニ此
 等ノ場合ニ在テハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル後ニ於テ
 偽證ノ罪發覺シタルトキト雖モ仍ホ前條ノ例ニ照シテ
 處斷セサルヘカラサルナリ然レトモ裁判所ニ於テ現ニ
 言渡シタル刑相當ノ刑ヨリ重ク而シテ證人被告人ヲ陷
 レンガ爲メ偽證ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ果テ偽
 證者ノ言ノミヲ信シテ此言渡ヲ爲シタルヤ否ヲ探究ス
 ルヲ要セス法律上被告人ハ偽證ノ爲メ刑ノ言渡ヲ受ケ
 タリト推測スルモノナリ

〔三三〇〕第二項 本項ハ其刑期限内偽證ノ罪發覺シタルトキ
 ノ規則ヲ定ム

偽證其效ヲ生シタルトキ偽證者ヲシテ反坐セシムルハ

ノ例ニ照シテ處斷スヘシト定メタリ
 然レトモ余思フニ反坐ノ刑偽證ノ刑ヨリ輕キトキハ前
 條ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘテ之ヲ罰スル方蓋シ允當ナル
 ヘシ何トナレハ偽證全ク其效ヲ生シタルトキト偽證未
 ダ其效ヲ生セサルトキト其刑ヲ同フスルノ理アラサレ
 ハナリ因テ立法官此點ヲ改正セラレンコトヲ希望ス
 本項ニ付キ最モ注意ヲ要スルモノハ偽證ノ爲メ被告人
 刑ニ處セラレタルコト是レナリ若シ被告人ヲ陷レンカ
 爲メ偽證ヲ爲シタルト雖モ其實被告人罪アリテ裁判所
 ノ言渡其當ヲ得タルモノナルトキハ被告人偽證ノ爲メ
 ニ刑ノ言渡ヲ受ケタリトイフヲ得ス又裁判官ニ於テ偽
 證者ノ陳述ニ毫モ信ヲ措カス他ノ證據ニ依リ偽證者ノ
 證スル所ヨリモ輕キ刑ヲ言渡シタルトキ亦同シ故ニ此
 等ノ場合ニ在テハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル後ニ於テ
 偽證ノ罪發覺シタルトキト雖モ仍ホ前條ノ例ニ照シテ
 處斷セサルヘカラサルナリ然レトモ裁判所ニ於テ現ニ
 言渡シタル刑相當ノ刑ヨリ重ク而シテ證人被告人ヲ陷
 レンカ爲メ偽證ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ果テ偽
 證者ノ言ノミヲ信シテ此言渡ヲ爲シタルヤ否ヲ探究ス
 ルヲ要セス法律上被告人ハ偽證ノ爲メ刑ノ言渡ヲ受ケ
 タリト推測スルモノナリ

〔三三〇〕第二項 本項ハ其刑期限内偽證ノ罪發覺シタルトキ
 ノ規則ヲ定ム
 偽證其效ヲ生シタルトキ偽證者ヲシテ反坐セシムルハ

是レ其公害ノ輕重ニ因ルモノナリ故ニ被告人偽證ノ爲メ刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ其刑ヲ受ケ了ラサル前ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルトキハ之ヲ被告人全ク其刑ヲ受ケ了リタル後ニ於テ發覺シタル場合ニ比スルニ其害小ナリトス故ニ此場合ニ於テハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得ト定メタリ

本條ニ付キ一ノ疑問アリ曰ク既ニ經過シタル日數トハ偽證ノ罪發覺シタルマテノ間既ニ經過シタル日數チイフ乎ト或曰ク刑期限内ニ偽證ノ罪發覺シタルトキハ陷害セラレタル者其刑ヲ減セラレ若クハ之ヲ免カル、チ得故ニ反坐ノ刑ヲ減スルヲ許スモノナリ然ルニ陷害セラレタル者ノ刑ハ偽證ノ罪發覺スルヤ當然之ヲ減シ若クハ免スルモノニ非ス治罪法ニ依ルニ偽證者カ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ之ヲ證據トシテ再審ノ訴ヲ爲シ始メテ其刑ノ減輕若クハ免除ヲ得ルモノニシテ而シテ再審ノ裁判アルマテハ其刑ノ執行ヲ停止セサルモノナレハ偽證ノ罪發覺シタルマテノ間現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑ヲ減スヘキモノニ非ス然レトモ實際陷害セラレタル者ノ刑何時ニ減輕セラレ又ハ免許セラレ、ヤ豫メ之ヲ知ルヲ得サレハ偽證者ニ對シ刑ヲ言渡シタル日マテニ既ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑ヲ減スルコトヲ得ト解セサルヘカラスト余謂ラク然ラス法律ニ偽證ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シトアル以上ハ偽證ノ罪發覺シタルトキ現ニ經過シタ

ル日數ト解セサルヘカラス或ノ説ノ如キハ唯一ノ立法
論ニシテ根據ヲ法文ニ求メサルモノナリ而シテ本項ノ
規則タル少ク短所アルニ似タリト雖モ法律ニハ減スル
コトヲ得トアリテ必ラスシモ之ヲ命スルニ非サレハ實
際敢テ不都合アルニ非ス又少ク不都合アリトスルモ之
ヲ執行處分ニ委セサル以上ハ到底之ヲ醫治スルヲ得サ
ルヘシ故ニ余ハ本條ノ改正ヲ要メサルナリ其之ヲ醫治
スル能ハサル所以ハ敢テ緊要ノコトニ非サルヲ以テ茲
ニ之ヲ贅セス

右ノ如ク刑期限内偽證ノ罪發覺シタルトキハ現ニ經過
シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得ルト
雖モ減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス是レ前條

ノ刑ハ偽證其效ヲ生セサル場合ニ適用スヘキモノナレ
ハ偽證其效ヲ生シタルトキ却テ輕キ刑ヲ科スルノ理ナ
キカ故ナリ本項ニ在テモ亦前條偽證ノ刑ニ一等ヲ加ヘ
タル刑ヨリ降スコトヲ得スト定メラル、方蓋シ允當ナ
ルヘシ

○佛刑法第三百六十一條 第二百十八條
全文ヲ掲ク

同第三百六十二條 同上

同第三百六十四條 同上

第二百二十二條

偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑
一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタ
ル時ハ二等ヲ減ス 刑ニ八五、
三、五、七

若シ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽證ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未ダ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス同上

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

四 死刑執行前ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルモ其執行

ヲ停ムルヲ得サリシトキハ如何

〔一〕〇本條ハ偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタルトキ偽證者ノ刑ヲ加重スルノ特例ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルトキハ反坐ノ刑一等ヲ減シ其未ダ刑ヲ執行セサル前

ニ於テ發覺シタルトキハ二等ヲ減スル旨ヲ定ム

偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタルトキハ偽證者ヲ其

刑ニ反坐シ若シ其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル

トキハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ通常偽證ノ刑期ニ

至ルマテ反坐ノ刑期ヲ減スルヲ得ルヲ以テ原則トス然

レトモ被告人之カ爲メニ死刑ニ處セラレタルトキハ此

原則ニ從テ處斷スルヲ得ス何トナレハ第一死刑ハ刑ノ

極度ナレハ偽證者ヲ死刑ニ反坐スルハ苛酷ナリ第二死

刑ハ一時ニ執行スル所ノモノレハ未ダ之ヲ執行セサル

前ニ於テ偽證ノ罪發覺シタルトキハ何レノ點ニ至ルマ

テ反坐ノ刑ヲ減降シテ可ナル乎其據テ定ムル所ナケレ

ハナリ故ニ本項特ニ死刑ニ付テハ反坐ノ刑一等ヲ減シ

其未タ刑ヲ執行セサルトキハ二等ヲ減スヘシト定メダ
 リ是レ能ク其當ヲ得タルモノナリ

〔三〕〇第二項 本項ハ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽
 證ヲ爲シタルトキノ特例ヲ定ム

前項ハ被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタリト雖モ是
 レ唯偽證ノ結果ニシテ偽證者ノ期シタル所ニ非サル場
 合ヲ定ム故ニ反坐ノ刑一等ヲ減スト雖モ若シ偽證者被
 告人ヲ死ニ陥レント圖リタルトキハ其情重ク恰モ夫ノ
 謀殺ニ異ナラス故ニ之ヲ死刑ニ反坐スヘシト定メタリ
 而シテ其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ偽證ノ罪發覺シ
 タルトキハ其害少ナキヲ以テ一等ヲ減スヘシト定メタ
 リ

〔四〕〇或問テ曰ク未タ死刑ヲ執行セサル前ニ於テ偽證ノ罪
 發覺シタリト雖モ死刑執行ヲ司ル者之ヲ知ラスシテ遂
 ニ其執行ヲ爲シタルトキハ如何處斷スヘキ乎ト曰ク實
 際偽證ノ罪發覺シタルトキハ直チニ其旨ヲ執行官ニ通
 知シ執行官ハ必スシモ直チニ死刑ヲ執行スヘキモノニ
 非サレハ偽證ノ罪定マルマテ其執行ヲ停止スヘキナリ
 然レトモ長崎ニ於テ偽證ノ爲メ處セラレタル死刑ノ執
 行ヲ爲ストキニ當テ偽證者東京ニ於テ司法警察官ニ其
 罪ヲ自首シタル場合ノ如キ或ハ其旨ヲ執行官ニ通知ス
 ルノ暇ナク遂ニ死刑ヲ執行スルニ至ルコトナキヲ保セ
 ス今此場合ニ於テ執行ノ日時ト發覺ノ日時トヲ比照シ
 發覺ノ日時早キトキハ本刑ヨリ一等ヲ減スヘキ乎將タ

死刑ノ執行ヲ停止シ以テ公害ヲ防クノ效ヲ生セサレハ其刑ヲ減スヘカラサル乎余謂ラク本條ニ於テ偽證ノ罪其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタルトキハ一等ヲ減スヘシト定メタルモノハ是レ其偽證ノ惡結果ヲ未然ニ防キ公害ノ一分ヲ減スルノ效アルカ故ナリ故ニ若シ執行ノ日時ト發覺ノ日時トテ比照シ執行ノ日時後ニ在ルト雖モ實際其執行ヲ停止スルヲ得サリシトキハ偽證者ノ刑ヲ減スヘカラサルカ如シ然レトモ法律ニ其未タ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時トアリテ之カ爲メ死刑ノ執行ヲ停止スルヲ得タルト否トテ分タサレハ解法上ハ必ス其刑ヲ減輕スルモノトセサルヘカラサルヘ

第二百二十三條

民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム

刑事ハ人ノ生命身體榮譽等ニ關シ且專ラ公益ニ關スルモノナリ故ニ刑事ニ關スル偽證ハ之ヲ罰スル重ク且其曲庇ト陷害ト又其目的トスル罪ノ種類ト其結果ノ有無トニ依テ刑ニ輕重ヲ設ケタリト雖モ民事商事若シハ行政裁判ハ其利益ノ關係スル所刑事ノ如ク大ナラス且原被兩造ノ利益對等ニシテ輕重ヲ其間ニ爲スヲ得サレハ

本條ニ於テ凡ソ民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ其事件ノ何タルヲ問ハス又其原告ヲ曲庇陷害センカ爲メナルトニ論ナシ又其結果ヲ生シタルト否トニ關セズ一月以上一年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ナル一定ノ刑ニ處スヘシト定メタリ

吾カ國未ダ民事商事行政裁判等ニ付テ證人タルノ能力ニ關スル完全ナル成法ナシ然レトモ公權ヲ剝奪セラレ若クハ停止セラレタル者ノ如ク法律上事實參考ノ爲メニ非サレハ陳述ヲ爲スヲ得スト定メタル者ハ縱ヒ詐偽ノ陳述ヲ爲スモ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

○佛刑法第三百六十三條 五月八日改正 民事ニ於テ

偽證ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮及ヒ五十「フランク」以上二千「フランク」以下ノ罰金ニ

處セラルヘシ犯人ハ又前條ニ記載シタル附加刑ニ處セラル、コトヲ得 刑九、四〇以下、治一、七九以下、三六二、

同第三百六十六條 五月八日改正 民事ニ付キ宣誓

ノ求メヲ受ケ又ハ其反求ヲ受ケ偽誓ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ禁錮及ヒ百「フランク」以上三千「フランク」以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

犯人ハ尙ホ其刑ヲ受ケ了リタル日ヨリ五年以上十年以下ノ時間此法典第四十二條ニ記載シタル權利ヲ剝奪セラレ且同一ノ年限間監視ニ付セラル、コトアルヘシ 刑九、四〇以下、四一、三六三、二以下、

第二百二十四條

鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル僞證ノ例ニ照シテ處斷ス〔刑一七九〕

○本條ハ鑑定人又ハ通事ニシテ裁判所ニ於テ詐僞ノ陳述ヲ爲シタル者ノ罪ヲ定ム

鑑定人トハ學術職業ニ因リ鑑定ヲ爲ス者ヲイヒ通事トハ外國ノ語ヲ通譯シ若クハ聾啞者ノ意ヲ通辨スル者ヲイブ而シテ鑑定人通事ハ何レモ眞實ヲ陳フヘキ者ナレハ若シ故意ヲ以テ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ僞證者ト同ク前數條ニ記載シタル例ニ照シテ之ヲ處斷スルモノナリ

鑑定人又ハ通事ハ民刑裁判所ニ於テ其職務ヲ行フ者ナリ今民事ニ付テハ別ニ其能力ニ關スル完全ナル規則ナキヲ以テ唯刑事ニ付テ之ヲ論セン刑事ニ付テハ鑑定人及ヒ通事ハ證人ト同ク正實ニ鑑定又ハ通譯ヲ爲スヘキノ誓ヲ爲スモノナリ而シテ鑑定人ハ治罪法第百九十五條ニ於テ證人ト同ク第百八十一條及ヒ第百八十二條ニ記載シタル者ハ事實參考ノ爲メ鑑定ヲ命スルヲ得ルノミ之ヲ以テ眞ノ鑑定人ト爲スヲ得スト定メタリ故ニ宣誓ヲ爲サル者ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲スモ之ヲ罰スルヲ得サルナリ又通事ニ付テハ正實ニ通譯スヘキノ宣誓ヲ爲サシムルノ規則アルノミ之カ無能力者ノ定メナシ此點タル義ニ治罪法釋義ニ論シタル如ク法ノ闕典ニシテ而

モ解法上補フヲ得サルモノナレハ總テ通事ヲ命セラレタル者ハ必ス宣誓ヲ爲スヘク其詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ必ス本條ニ依リ之ヲ罰スヘキナリ

第二百二十五條

（刑一）
同シ
〇五、

賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

〇本條ハ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ノ罪ヲ定ム
余熟々考フルニ本條ハ曾ニ無要ナルノミナラヌ亦有害ナリ今左ニ其所以ヲ辨セシ

總則第一百五條ニ於テ教唆者ヲ以テ一ノ正犯ト定メタリ而シテ教唆者トハ詐欺脅迫結約贈與威權ノ類ヲ以テ人

ヲシテ罪ヲ犯スノ意ヲ決セシメタル者ヲイフ故ニ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ無論右第一百五條ニ依リ正犯トシテ之ヲ罰スルヲ得ヘク之カ爲メ特ニ本條ヲ設クルヲ要セス是レ余カ本條ハ無要ナリトイヒシ所以ナリ又本條ニハ人ニ囑託シ云々トアリ故ニ其他ノ方法ノ中ニハ詐欺結約等ヲ包含スルト雖モ脅迫威權ノ類ノ如ク囑託ノ方法ニ非サルモノハ之ヲ其中ニ包含セズ故ニ特ニ本條ノ設ケアルカ爲メニ脅迫威權等ヲ用ヒ人ヲシテ本節ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ之ヲ不問ニ付スルモノナリヤノ疑ヲ生セシム甚キニ至テハ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタルトキハ其者ヲ

罰シテ現ニ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲シタル者ハ之
 ナ罰セサルモノナリトノ誤解ヲ下ス者アルニ至ルヘシ
 是レ余カ本條ハ有害ナリトイヒシ所以ナリ故ニ本條ハ
 速ニ之ヲ削除セラレンコトヲ希望ス然レトモ其削除ナ
 キ間ハ本條ハ第百五條ノ適用ヲ定メタルモノニシテ本
 條ニ漏レタルモノト雖モ第百五條ニ依リ罰スヘキモノ
 ハ仍ホ之ヲ罰スヘク且囑託ヲ受ケテ本節ノ罪ヲ犯シタ
 ル者モ亦之ヲ罰スルモノト解セサルヘカラサルナリ
 ○佛刑法第三百六十四條 第二百十八條
 全文ヲ掲ク
 同第三百六十五條 證人ノ「シニボルナシヨ」人其ヲ誘フ
 ニ背カシテ犯シタル者ハ第三百六十二條第三百六
 十三條及ヒ第三百六十四條ニ定メタル區別ニ從ヒ

偽證人ト同一ノ刑ヲ受クヘシ

第二節 第二百二十六條

此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告

ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス 刑八
 五八

九八、一三五六、一

○本條ハ偽證及ヒ詐偽ノ鑑定通事ノ罪ニ付キ自首ノ特
 例ヲ定ム

本節ノ罪ハ裁判官ノ眼ヲ蔽ヒ之ヲシテ誤判ヲ爲サシメ
 因テ公益ヲ害スルカ故ニ之ヲ罰スルモノナリ故ニ此罪
 ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官
 廳ニ自首シ其害ヲ未然ニ防キタルトキハ本刑ヲ免シ以テ
 自首ヲ獎勵ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

然レトモ本條ニ付キ一ノ疑問アリ裁判宣告トハ結審ノ
 裁判宣告チイフ乎將タ確定動カスヘカラサル裁判宣告
 チイフ乎ノ點是レナリ余謂ラク本條ノ規則ハ害ヲ未然
 ニ防クノ效アルカ故ニ設ケタルモノナレハ此趣意ニ基
 テ之ヲ解セサルヘカラス今此趣意ニ基クトキハ事實裁
 判所ノ結審ノ言渡前ニ自首シタルトキハ其刑ヲ全免ス
 ルモノト解セサルヘカラス然レトモ實際上往々困難ヲ
 生スルモノナレハ左ニ少ク此點ヲ開設スヘシ
 一〇公判ノ裁判ハ刑ノ言渡ト無罪免訴ノ言渡トチ問ハ
 ス何レモ其事件ヲ結審スルノ裁判ナリ故ニ輕罪裁判所
 ニ於テ偽證ヲ爲シ其裁判所ニ於テ無罪免訴又ハ刑ノ言
 渡ヲ爲シタルトキハ其後自首ヲ爲スト雖モ其刑ヲ全免

セス然レトモ若シ檢察官又ハ被告人ヨリ其裁判言渡ニ
 對シ控訴ヲ爲シタルトキハ現今刑事ニ付キ控訴裁判所
 ニ於テ裁判ヲ爲スニ至ルマテハ其自首ノ效ヲ有ス是レ
 此場合ニ於テハ輕罪裁判所ノ裁判消滅シ而シテ未ダ控
 訴ノ裁判アラサル前ナレハナリ然レトモ控訴裁判所ニ
 於テ裁判言渡ヲ爲シタル後ハ檢察官又ハ被告人ニ於テ
 上告ヲ爲シタルト否トチ問ハス自首ノ效ナシトス何ト
 ナレハ大審院ニ於テハ原裁判言渡ノ當否ヲ判定スルニ
 止マリ毫モ事實ニ干涉スルヲ得サルモノナレハ縱ヒ偽
 證者アルヲ知ルモ之ヲ原由トシテ原裁判ヲ破毀スルヲ
 得サレハナリ然レトモ若シ大審院ニ於テ他ノ原由ヲ以
 テ原裁判ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移シタルトキ

ハ其自首ノ效アリトス是レ此場合ニ於テハ有罪若クハ無罪免訴ノ言渡悉ク消滅シ未タ一モ裁判ナルモノナケレハナリ此點タル既ニ再三之ヲ詳説シタルヲ以テ本條ニ在テハ唯其大要ヲ示シ敢テ之ヲ繙繚セサルナリ

二〇豫審終結ノ言渡ニ付テハ宜ク區別ヲ設ケテ論セサルヘカラス免訴ハ豫審ノ言渡ト雖モ仍ホ是レ一ノ結審ノ裁判ナリ何トナレハ治罪法第二百六十一條第二項ニ一旦豫審免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ再ヒ訴フルノ法アリト雖モ是レ唯一ノ變則ノミ其一般ノ性質タル事件ヲ結審スルノ裁判ナレハナリ故ニ免訴ノ言渡ニ付テハ總テ公判免訴ノ言渡ト同ク之カ處分ヲ爲スヘシ或ハ曰ハ

豫審免訴ノ言渡アリタル後偽證者自首スルニ於テハ

更ニ訴ヲ起スヲ得故ニ此場合ニ於テハ免訴ノ言渡後ト雖モ仍ホ自首ノ效アルニ非スヤト豈其レ然ランヤ本條ニ付テハ事件ヲ結審スル所ノ言渡ノ前後ニ因テ區別ヲ設クヘク他ノ方法ニ依ルヘカラス若シ再ヒ訴ヲ起スヲ得ルヲ理由トシテ免許ノ言渡後ニ自首シタル者ノ刑ヲ全免スヘシトセハ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テモ輕キ誣テ重ト爲シタル偽證人本案被告人ニ於テ相當ノ刑期ヲ終ラサル前ニ自首シタルトキハ仍ホ其刑ヲ全免セサルヘカラスナルニ至ルヘシ故ニ余ハ豫審免許ノ言渡後ハ自首ヲ爲スモ唯總則ニ從ヒ其刑ヲ減セラル、ノミ之ヲ免カル、ヲ得サルモノトス然レトモ被告事件ヲ裁判所ニ移スノ言渡ハ結審ノ裁判ニ非ス故ニ豫審ニ於テ偽證

又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲シタル者ハ公判裁判所ノ言渡アルマテノ間ハ自首ヲ以テ其刑ヲ免カル、ヲ得ヘキナリ

三〇豫審公判ヲ問ハス管轄違ノ言渡ハ其事件ヲ結審スルモノニ非ス故ニ偽證者ハ管轄裁判所ニ於テ右ニ開説シタル區別ニ從ヒ自首ヲ爲シテ其刑ヲ免カル、ヲ得ヘキナリ

○本條ノ釋義ヲ終ルニ臨テ一言スヘキコトアリ本條ニ所謂自首ハ未發自首ニ限レルコト是レナリ此點タル曩ニ第二百二十六條及ヒ第九十二條ニ於テ之ヲ詳論シタリト雖モ本條ニ就テ愈余ノ説ノ誤ラサルヲ證スルニ足ルカ故ニ尙ホ茲ニ之ヲ明カニスヘシ本條ニハ單ニ自首

トアリテ官ニ自首スルノ明文ナシ今此明文ナキヲ以テ官ニ自首セス何人ニ自首スルモ其效アリトスル乎何人ト雖モ其然ラサルヲ知ラン必スヤ總則ニ從ヒ官ニ自首スルヲ要スルトイハソ果テ然ラハ其未發既發ノ點モ亦總則ニ從ヒ未發ニ限レルモノト解スヘキヤ固ヨリ當然ノコトナリ

○

附言

明治十五年司法省丙第十號達ヲ以テ治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ證人トスルトキハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシメ宣誓セシムルニ及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシムヘシト

定メ同年同省丙第二十二號及ヒ丙第三十一號達ヲ以テ治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ證人トシテ公廷へ呼出ス時ハ本年本省丙第十號達ニ準シ處分スル儀ト心得ヘシ但巡查及ヒ等外吏ノ着席ハ此限ニ在ラスト定メ且同年同省丙第三十二號達ヲ以テ總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付キ證明セシムル爲メ其呼出ヲ要スルトキハ本年當省丙第十號達ニ準シ取扱フヘシト定メタリ今此等ノ官吏被告人ヲ曲庇シ又ハ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタルトキハ如何處分スヘキ乎余謂ラク宣誓ヲ爲シテ陳述ヲ爲シタルニ非サレハ偽證ノ罪ナシトハ宣誓ヲ爲サ、ル者ノ陳述ハ證據ニ非サルカ故ナリ今官吏ハ職務上ノ專ニ付テハ

其職務ノ性質ニ因リ當然眞實ナル陳述ヲ爲スヘキモノナレハ之カ爲メ特ニ宣誓ヲ爲サシムルニ及ハスト定メタル以上ハ官吏ノ宣誓セスシテ爲シタル陳述ハ猶ホ宣誓ヲ爲シタル者ノ陳述ト全ク其效力ヲ同フスルヲ以テ其偽證ヲ爲シタルトキハ本節ニ依リ之ヲ處斷セサルヘカラサルナリ是レ猶ホ民事商事等ニ宣誓ノ式ナク而モ法律上證人ト爲ス者偽證ヲ爲シタルトキハ之ヲ罰スルト其理同一轍ニ歸スルモノナリ此點タル第二百十八條ニ於テ論スヘキモノナリト雖モ同條ニ於テ之ヲ論スルヲ遺忘シタルカ爲メ茲ニ附言シテ其闕ヲ補フ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

○本節凡テ四條度量衡ヲ偽造スル罪ヲ定ム
 度ナリ量ナリ衡ナリ何レモ社會必要ノ器具ニシテ殊ニ
 商業上未確定物ノ賣買ニハ須臾モ闕クヘカラサルモノ
 ナリ故ニ最モ其正實ヲ要シ且最モ世ノ信用ヲ貴ム是ヲ
 以テ其製造販賣共ニ官ノ許可ヲ要シ其記號印章ヲ得テ
 以テ之ヲ世ニ證ス然ルニ若シ之ヲ偽造スルトキハ其一
 般ノ信用ヲ害スル蓋シ亦少ナシトセス是レ本節ノ設ケ
 アル所以ナリ

第二百二十七條

度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以
 上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル
 時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス〔刑〕一九四以下

○本條ハ度量衡ノ三器ヲ偽造又ハ變造シテ販賣シタル
 者ノ罪ヲ定ム

度量衡ハ最モ世ノ信用ヲ要ス故ニ之ヲ偽造變造シタル
 者ヲ罰スルト雖モ單ニ之ヲ偽造變造シタルノミニテハ
 未タ以テ罪トセス之ヲ販賣シタルトキ始メテ罪アリト
 ス是レ度量衡ヲ偽造若クハ變造スルモ自ラ之ヲ所有シ
 而シテ第二百二十九條ニ觸レサル者ハ之ヲ罰スルノ要
 ナケレハナリ然レトモ余思フニ本條ニ於テ偽造變造ニ
 係ル度量衡ヲ販賣シタルトキノミ其罪アリト定メタル
 ハ恐クハ狹隘ニ失スヘシ何トナレハ度量衡ヲ偽造變造

シテ之ヲ交換シタル者ノ如キ又商賈農工自ラ度量衡ヲ
偽造變造シ又ハ他人ヲシテ偽造變造セシメ之ヲ使用シ
テ以テ利ヲ私シタル者ノ如キ本條ニ依テ之ヲ罰スルヲ
得サレハナリ因テ本條ハ之ヲ改メ廣ク度量衡ヲ偽造シ
又ハ變造シテ販賣交換シ其他不正ニ使用シタル者ハ云
々トセラレンコトヲ希望ス

右ノ如ク度量衡ヲ偽造變造シテ之ヲ販賣シタル者ハ二
年以上五年以下ノ重禁錮及ヒ十圓以上五十圓以下ノ罰
金ニ處スルト雖モ若シ官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用
シタルトキハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ之ヲ處斷ス是
レ度量衡ヲ偽造變造シタルカ爲メ重キ官印偽造ノ刑ヲ
免カル、ノ理ナキニ由ル而シテ本條ニハ單ニ偽造盜用

トアリテ偽印ヲ使用シタル場合ヲ定メス然レトモ偽造
ニ係ル記號印章ヲ使用シタル者亦偽造官印ノ各本條ニ
照シ重キニ從テ處斷スヘキコト蓋シ一點ノ疑ヲ容レサ
ルナリ

或問テ曰ク官偽造ノ度量衡ニ記號印章ヲ施シタルトキ
ハ如何ト曰ク度量衡ニ官ノ記號印章ヲ施スコハ必ス先
ツ其定規ニ違ハサルヤ否ヲ検査スルモノナレハ若シ官
ニ於テ其定規ニ違ハサルヲ認メ之ニ記號印章ヲ施シタ
ルトキハ之ヲ販賣スルモ其罪ナシ是レ此場合ニ於テハ
眞正ナル度量衡ヲ販賣シタルモノニシテ偽造ノ度量衡
ヲ販賣シタルモノニ非サレハナリ然レトモ實際官吏其
情ヲ知テ定規ニ違ヘル度量衡ニ記號印章ヲ施スコトナ

キコ非ス此場合ニ於テハ其官吏ヲ偽造官印第九十七
 條第二項ニ依リ罰スルハ勿論ナリト雖モ度量衡ヲ偽造
 シタル者ハ如何之ヲ處分スヘキ乎余思フニ度量衡ヲ偽
 造シタル者ト官吏ト通謀シタルトキハ偽造官印ノ條及
 ヒ本條ニ依リ一ノ重キニ從テ之ヲ罰スヘク若シ通謀セ
 サルトキハ唯本條ニ依リ之ヲ罰スヘシ或ハ日ハン其通
 謀セサルトキハ度量衡ヲ偽造變造シタル者ヲ罰スルヲ
 得サルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ官ニ於テ記號印
 章ヲ施シ而シテ官吏其定規ニ違ヘルヲ知テ之ニ記號印
 章ヲ施シタルハ偽造者ノ與知セサル所ナレハナリト官
 ニ於テ度量衡ノ定規ニ違ハサルヲ證シ之ニ記號印章ヲ
 施シタルトキハ其度量衡タル真正ノモノナルニ因リ之

ヲ販賣シタル者其罪ナシト雖モ己レ其定規ニ違フヲ知
 リ而シテ官吏不正ニ記號印章ヲ施シタルトキハ其度量
 衡タル官ノ記號印章アリト雖モ仍ホ偽造ノ度量衡タル
 ニ妨ケナシ故ニ之ヲ販賣シタル者ハ本條ニ依リ之ヲ罰
 セサルヘカラサルナリ
 或問テ曰ク度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ店頭ニ陳列シ
 タル者ハ如何ト曰ク本條ニハ販賣シタル者トアリ故ニ
 店頭ニ陳列シタリト雖モ未ダ販賣セサル者ハ之ヲ罰ス
 ルヲ得ス然レトモ既ニ販賣センカ爲メ偽造又ハ變造ニ
 係ル度量衡ヲ店頭ニ陳列シタルトキハ之ヲ罰スル方蓋
 シ正當ナランカ何トナレハ之ヲ店頭ニ陳列シタル以上
 ハ自ラ之ヲ所有スルニ非スシテ之ヲ販賣スルカ爲メナ

ルコト業ニ既ニ明白ニシテ乃チ其公益ヲ擾亂スルモノ
ナレハナリ因テ本條ニ販賣センカ爲メ店頭ニ陳列シタ
ルノ一事ヲ増加セラレンコトヲ希望ス

○佛刑法第四百二十三條 第三百九十二條
全文ヲ掲ク

同第四百二十四條 上同

第二百二十八條

偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條
ノ刑ニ一等ヲ減ス

○本條ハ自ラ度量衡ヲ偽造變造シタルニ非ス唯其情ヲ
知テ之ヲ販賣シタル者ノ罪ヲ定ム

自ラ度量衡ヲ偽造變造シテ販賣シタル者ト唯其情ヲ知
テ之ヲ販賣シタル者トハ其間輕重ノ差ナキ能ハス是レ

本條一等ヲ減シテ之ヲ罰スヘシト定メタル所以ニシテ
能ク其當ヲ得タルモノナリ然レトモ唯販賣シタル者ノ
ミチ罰スルハ亦少ク狹隘ニ失セルモノ、如シ故ニ前條
ト均シク之ヲ改正セラレンコトヲ希望ス

第二百二十九條

商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ
一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ
以テ論ス 刑三九〇、
三九二、

本條ノ主旨

第一項ノ解○苟モ商賈農工タル者定規ニ違ヘル

Handwritten notes in the left margin, including the characters '解' and '第一項ノ解'.

度量衡ヲ所有シタルトキハ悉ク皆ナ之ヲ罰スヘキ乎

三 第二項ノ解○本項ハ商賈農工ノミニ適用スヘキ乎○本項ヲ改正スヘキノ説

〔一〕○本條ハ商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シ又ハ之ヲ使用シテ利ヲ得タル者ノ罪ヲ定ム

〔二〕○第一項 本項ハ商賈農工定規ニ違ヘル度量衡ヲ所有シタル者ノ罪ヲ定ム

一般人民ハ偽造變造ニ係ル度量衡ヲ所有スト雖モ法律之ヲ罰セス唯度量衡規則ニ依リ之ヲ沒收スルノミ然レトモ商賈農工ニ於テ此等ノ度量衡ヲ所有スルトキハ職業上之ヲ不正ノ用ニ供スルノ恐レアリ故ニ其定規ニ違

ヘルモノナルコトヲ知ルトキハ單ニ之ヲ所有シタルノミニテ既ニ之ヲ罰スヘシト定メタリ

○或問テ曰ク苟クモ商賈農工タル者定規ニ違フタル度量衡ヲ所有シタルトキハ悉ク皆ナ之ヲ罰スヘキ乎ト曰ク否此點ニ付テハ高木氏ノ辨最モ盡セリ因テ其要ヲ抄

録スヘシ刑法曰ク例ヘハ吳服商其他尺度ニ依テ賣買

ヲ爲ス商賈ニシテ不正ノ尺度ヲ所有シ穀類酒油醬油ノ如キ斛斗ヲ以テ賣買ヲ爲ス商賈又ハ農ニシテ不正ノ量

ヲ有シ生糸製茶烟草其他掛目ヲ以テ賣買ヲ爲ス商賈ニシテ不正ノ秤ヲ有スル者ノ如キ即チ此條ノ刑ニ處ス可キ者ナリ故ニ吳服商又ハ工匠ニシテ不正ノ斛斗ヲ有シ米商酒店及ヒ農家ニ不正ノ尺度若クハ秤ヲ有シ生糸製

茶ノ商買ニ不正ノ尺度斛斗ヲ有スル如キハ唯其器具ヲ
沒收スル而已ニシテ此條ノ罪ニ問ハサルナリ〔理由〕第一
刑法第二編ハ公益ニ關スル罪ニシテ此章ハ即チ一般ノ
信用ヲ害スル罪ナリ利害損益共ニ一身上ニ在テ毫モ他
人ニ關係ナキ所爲ヲ罰スル者ニ非サルナリ第二全國ノ
人民悉皆農商工ニシテ而シテ其農ニ非ス商ニ非ス又工
ヲラサル者一モ之無キ乎若シ之レアリトセハ其農商工
ヲラサル者ニシテ定規ニ増減アル度量ヲ有スル者ハ何
ノ理由アツテ之ヲ不問ニ措キタル乎是レ其他人ニ關係
無ク唯其一家ノ用タルニ過キサルカ故ニ非スヤ果シテ
然ラハ米商ノ尺度ヲ有シ吳服屋工匠ノ斛斗ヲ有スル亦
一家ノ用ニ過キスシテ他人ニ損害ヲ及ホスモノニ非ス

何ノ理何ノ益アリテ之ヲ罰セシヤ第三第二百二十七條
度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者云々トアリ
故ニ其未タ販賣セサル者ハ偽造變造既ニ成ルモ其罪ヲ
問ハサルナリ偽造變造シテ之ヲ有スル者尙未タ之ヲ罰
セス而シテ其他人ニ關係アル商工業ノ用ニ供セス唯之
ヲ有スル者ニシテ既ニ之ヲ罰スルノ理アランヤ云々ト
其引例中ニハ人ヲシテ少ク實際ニ背馳スルモノナキヤ
ヲ疑ハシムルモノアリト雖モ畢竟スルニ論旨頗ル美チ
得タルモノナリ

〔三〕○第二項 本項ハ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ使用シテ
利ヲ得タル者ノ罪ヲ定ム

商買農工定規違ニヘル度量衡ヲ所有シタルトキ之ヲ罰

スルハ其之ヲ不正ノ用ニ供シ社會公益ヲ害スルコトアラシキコトヲ恐ル、カ故ナリ故ニ專ラ豫防處分ニ屬スト雖モ本項ハ之ヲ使用シタル者ヲ罰スルモノニシテ專ラ懲戒處分ニ屬シ前項トハ全ク其趣意ヲ異ニス而シテ之ヲ使用スルニ二様アリ一ハ自己ノ利ヲ得ンカ爲メニ使用スルコトニシテ一ハ人ヲ利センカ爲メニ使用スルコトナリ若シ自己ノ損失ヲ顧ミスシテ專ラ人ヲ利センカ爲メ定規ニ違ヘル度量衡ヲ使用シタル者アラハ別ニ公益ヲ害スルコトナク所謂自被害罪ノ一種ニシテ法律之ヲ問ハサルナリ然レトモ實際定規ニ違ヘル度量衡ヲ使用スル者ハ多クハ己レヲ利センカ爲メニシテ乃チ詐欺取財ノ性質ヲ帶フルモノトス是レ本項ニ詐欺取財ヲ以

テ論ストアル所以ナリ

○或問テ曰ク本項ハ商賈農工ノミニ適用スヘキモノナル乎ト曰ク否ナ定規ニ違ヘル度量衡ハ常人ノ之ヲ所有スルモ刑法之ヲ罰セス唯農工商ノ之ヲ所有スルトキノミ之ヲ罰スルモノナリ然レトモ其度量衡ヲ以テ對手ヲ欺キ以テ利ヲ私シタルトキハ其農工商タルト否トヲ論セス之ヲ罰セサルヘカラス是レ詐欺取財ハ農工商ニ限レルノ罪ニ非ス何人ト雖モ之ヲ犯スヲ得ヘク而シテ何人ノ之ヲ犯シタルモ亦公害ヲ醸生スルモノナレハナリ故ニ本項ハ一般ニ適用スルモノト解セサルヘカラスナルナリ

○余ハ第二百二十七條及ヒ第二百二十八條ニ於テ度量

衡ヲ偽造シ又ハ變造シ若クハ其情ヲ知テ之ヲ販賣シタルノミヨ止マラス總テ之ヲ不正ニ使用シタル者ヲ罰スル方允當ナルヘシト説ケリ若シ立法官ニシテ幸コ余ノ説ヲ容レ法律ヲ改正セラル、コトアラハ本項ハ之ヲ改メテ若シ度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ノ條ニ照シ重キヨ從テ處斷スヘシト爲サ、ルヘカヨス何トナレハ自ラ度量衡ヲ偽造變造シテ之ヲ使用シ以テ利ヲ得タルトキノ類ハ本節ニ定メタル刑却テ詐欺取財ノ刑ヨリモ重キコトアレハナリ

○佛刑法第四百二十三條 第三百九十二條
全文ヲ掲ク

同第四百二十四條 同上

第二百三十條

人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

○本條ハ人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造變造シタル者ノ罪ヲ定ム

自ラ企テ、度量衡ヲ偽造變造スル者ト人ノ囑託ヲ受ケテ後始メテ之ヲ偽造變造スル者トハ其情大ニ異ナレリ故ニ本條ニ於テ此ノ如キ者ハ其囑託ヲ爲シタル犯人ノ刑ニ照シ一等ヲ減スヘシト定メタリ是レ正犯ニ關スル特例ナリ

然ルニ本條ニ付テハ一ノ疑問アリ若シ其囑託ヲ爲シタル者官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタルトキハ囑託ヲ受ケタル者ノ刑偽造官印ノ各本條ニ照シ一ノ重キ刑

ヨリ一等ヲ減スヘキ乎將タ第二百二十七條ノ刑ヨリ一等ヲ減スルニ止ムヘキ乎又商賈農工之ヲ囑託シ而シテ之ヲ使用シテ利ヲ得タルトキハ囑託ヲ受ケタル者ノ刑詐欺取財ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘキ乎將タ第二百二十九條第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減スルニ止ムヘキ乎ノ點是レナリ余謂ヘラシ度量衡ヲ偽造變造シテ之ヲ販賣シタルノ所爲及ヒ農工商定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スルノ所爲ハ一ノ罪ナリ故ニ其囑託ヲ受ケ度量衡ヲ偽造變造シタル者ハ第二百二十七條及ヒ第二百二十九條第一項ノ罪ノ正犯タルヲ免レスト雖モ官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタルノ所爲及ヒ定規ニ違ヘル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タルノ所爲ハ特別ノ罪ニシテ度量衡ヲ偽

造變造シテ販賣シタル罪及ヒ其度量衡ヲ所有スル罪ト密着シテ離ルヘカラサルモノニ非ス故ニ事實裁判官ニ於テ人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造變造シタル者官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ之ヲ盜用シタル罪若クハ定規ニ違ヘル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル罪ニ加功シタルコトヲ認メタル以上ハ其正犯若クハ從犯ヲ以テ之ヲ論スヘキモ若シ否ラサルトキハ決テ之ヲ正從犯トシテ論スルヲ得サルナリ而シテ此別罪ニ加功シタルノ事實アルトキハ本條ニ依リ之ヲ罰スルニ非スシテ總則ニ從ヒ正犯ナレハ同刑ニ處シ從犯ナレハ一等ヲ減スヘキナリ何トナレハ本條ハ唯偽造變造ニ付キ特例ヲ定メタルモノニシテ偽造官印又ハ詐欺取財ニ付キ特例ヲ定メタルモ

ノコ非キレハナリ
右ノ如ク本條ハ偽造變造ニ付キ正犯ノ特例ヲ定メタル
ニ過キササルモノナレハ第二百二十七條ヲ改正シテ廣ク
度量衡ヲ偽造變造シテ不正ニ使用シタル者ニ及ホシ而
シテ本條ヲ以テ同條第二項トセラレンコトヲ希望ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

○本節凡テ二條身分ヲ詐稱スル罪ヲ定ム
本節ニ所謂身分ヲ詐稱スル罪ニハ官署ニ對シ屬籍身分
氏名年齢若クハ官職位階ヲ詐稱シ及ヒ官ノ服飾徽章又
ハ内外國ノ勳章ヲ借用シタルノ罪ヲ包含ス此等ノ罪タ
ル直接ニ害ヲ生ゼサルカ如シト雖モ官ヲ欺キ一般ノ信

用ヲ害スルノ憂アルカ故ニ特ニ本節ヲ設ケタルナリ

第二百三十一條

官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ屬籍身分氏名年齢職
業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處
ス刑一七八、
二一四、

偽造變造

- 一 本條ノ解
- 二 被告人裁判所ニ於テ氏名年齢等ヲ詐稱シタルト
キハ如何

〔一〕○本條ハ官署ニ對シ屬籍身分等ヲ詐稱シタル者ノ罪ヲ
定ム
屬籍トハ何ソヤ高木氏刑法
義解ハ之ヲ指シテ府縣國郡町村
ノ類ナリトイヒ村田氏刑法
註釋小笠原氏刑法
註釋ハ華士族平民

身分ヲ詐稱スル罪 第二百三十一條

ノ類ナリトイフ余思フニ華士族平民ノ類ハ屬ニシテ籍ニ非ス府縣國郡町村ハ籍ニシテ屬ニ非サルナリ故ニ屬籍トハ華士族平民及ヒ府縣國郡町村ノ類ヲ併稱スルモノト解セサルヘカラス又身分トハ親屬ニ係ル身分戸主雇人後見人ノ類ヲイフ氏名年齢職業ハ別ニ解釋ヲ要セズ今此等屬籍氏名年齢等ヲ官署ニ對シテ詐稱シタル者ハ文書ヲ以テスルト言語ヲ以テスルトニ論ナク二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス然レトモ官署ニ對スルニ非サルトキハ一ノ偽言ニ止マリ詐僞ニ非ストシテ之ヲ罰セサルナリ

余思フニ官署ニ對シテ屬籍身分等ヲ詐稱シタルモ必スシモ皆ヲ詐僞ニ非ス或ハ尋常ノ偽言ニ止ムルモノアリ

然レトモ立法官ハ其偽言ニ過キサルモノト雖モ官署ニ對スルトキハ必ス之ヲ罰セサルヘカラストシテ本條ヲ設ケタルナリ

〔二〕〇或問テ曰ク被告人裁判所ニ於テ氏名年齢等ヲ詐稱シタルトキハ如何ト曰ク此點ニ付テハ甲乙丙三説アリ各其趣旨ヲ異ニス因テ左ニ之ヲ掲ケ然ル後其當否ヲ辨スヘシ

甲説 刑法第二百三十一條ニハ廣ク官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ屬籍身分等ヲ詐稱シタル者ハ云々トアリ今裁判所ハ一ノ官署ナレハ被告人裁判所ニ對シテ其氏名年齢等ヲ詐稱シタルトキハ必ス同條ニ依テ之ヲ罰セサルヘカラス

乙説
刑罰
詐稱
シタル

乙説 刑法第二百三十一條ノ文面ニ拘泥スルトキハ氏
 名年齢等ヲ詐稱シタル被告人ト雖モ仍ホ之ヲ罰スヘキ
 カ如シト雖モ能ク其精神ヲ考察スルトキハ被告人訊問
 ノ際其氏名年齢ヲ詐稱シタルモ同條ニ依リ之ヲ處斷ス
 ルヲ得ス何トナレハ其氏名等ヲ詐稱シタルハ一ノ辯護
 權ヲ行ヒタルモノナレハナリ抑被告人ハ自己ニ不利益
 ナル事柄ハ之ヲ陳ヘサルノ權アリ法律強テ之ヲ陳ヘシ
 ムルヲ得ス故ニ被告人自己ノ罪惡ヲ包藏スルモ法律之
 ヲ罰セス既ニ之ヲ罰セサルモノトセハ氏名等ヲ詐稱シ
 タルトキ亦之ヲ罰スルヲ得サルヤ明カナリ
 丙説 氏名年齢等ヲ詐稱スルヲ以テ辯護權ト爲スハ誤
 レリ此ノ如クシテ一般ノ風儀ヲ害スル甚シカラシ詐稱

ヲ以テ權利ト爲シ被告人ハ法廷ニ於テ何等ノ詐言ヲ吐
 シモ固ヨリ其權利ニシテ毫モ罰スヘキモノニ非スト爲
 スハ果テ能ク其當ヲ得タル乎果シテ然ラハ被告其罪ヲ
 免カレンカ爲メ他人ヲ誣告スルモ仍ホ之ヲ不問ニ付セ
 サルヘカラサルニ至ラン豈此ノ如キ理アラシヤ抑權利
 トハ正直ノモノニシテ邪曲ノモノニ非ス人ヲ欺騙スル
 ノ所爲ヲ以テ正直ナルヲ要スル辯護權ト看做スハ不當
 モ亦太甚シカラスヤ夫ノ辯護權トハ冤枉ヲ防クノ權ニ
 シテ罪ヲ免カル、ノ權ニ非ス故ニ氏名等ヲ詐稱スルハ
 決テ辯護權ニ非サルナリ然レトモ氏名等ヲ詐稱シタル
 被告人ヲ罰スヘシトイフニ非ス之ヲ罰セサルノ理由他
 ニ在ルアリ蓋シ被告人ノ其罪ヲ免カレンカ爲メニ氏名

等ヲ詐稱スルハ人ノ常情ナレハ之ヲモ猶ホ罰スルト
 キハ刑罰苛酷ニ流ル、カ故ナリ譬へハ第七十五條ニ所
 謂抗拒スへカラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サル所爲ヲ行
 ヒシ者ノ如シ其所爲タル固ヨリ刑法上罪スへキモノナ
 レハ縱ヒ強制ニ遇ヒタリトテ人ニ此所爲ヲ行フノ權利
 アリトイフヲ得ス唯勢ヒ避ケ難キ事情アレハ之ヲ行フ
 モ罪トセサルノミ
 余謂ラク辯護權トハ正直ノモノナリト雖モ而モ亦情勢
 上正直ノモノ、ミニ瞿々タラサルコトアリ一概ニ冤枉
 ナ防クノミヲ以テ辯護權ノ圖範ナリトスルハ恐クハ苛
 酷ノ斷定ナランカ夫ノ被告人ハ自己ニ不利益ナル事柄
 ナ陳へサルノ權アリトハ取テ以テ辯護權ノ正解ト爲ス

ヲ得へシ即チ被告人ハ自己ニ不利益ナル事柄ノ訊問ヲ
 受クルトキハ黙シテ答へサルノ權アリ而シテ其黙シテ
 答へサルコトノ果テ正邪ヲ問ハサルナリ然レトモ辯護
 ノ爲メ詐陳ヲ爲スニ當テハ一般ノ法則ニ從フヘク辯護
 權ニ口籍シテ其罪ヲ免カル、ヲ得ス即チ道德上不正ト
 スル事ト雖モ法律ノ之ヲ罰セサル限リハ辯護ノ爲メ詐
 稱ヲ爲スヲ得へシト雖モ法律ニ觸ル、所爲ハ必スシモ
 之ヲ罰スヘク之ヲ辯護權ヲ行ヒタルモノトシテ恕スヘ
 カラサルナリ例へハ自己ノ罪ヲ免カレンカ爲メ犯罪ノ
 當時其場所ヨリ遠隔セル某地ニ在リシ又ハ當時疾病ニ
 罹リ外出シタルコトナシ等ノ詐陳ヲ爲スモ其事タル法
 律ニ觸レサルモノナレハ之ヲ罰スヘカラスト雖モ自己

ノ罪ヲ免カレンガ爲メ人ヲ誣告シ又ハ誹毀侮辱シタル
 トキ等ハ必ス之ヲ罰セサルヘカラス夫レ然リ故ニ余ハ
 辯護權云々ハ稍丙説ト其趣キチ同フスルモノナリ然レ
 トモ氏名等ヲ詐稱シタル被告人ヲ罰スヘキヤ否ノ點ニ
 至テハ全ク之ニ和スルコト能ハス丙説ハ唯情狀ニ基ク
 モノニシテ更ニ確乎不拔ノ論據ナキモノナリ今辯護權
 ヨリ之ヲ見レハ甲説却テ其理ヲ得タルカ如ク何トナレ
 ハ氏名ヲ詐稱スルハ一ノ罪ニシテ被告人ニ氏名詐稱ヲ
 禁スルモ之ヲシテ自己ノ不利ナル事柄ヲ強テ陳ヘシム
 ルモノニ非ス被告人眞正ノ氏名年齢等ヲ陳フルトキハ
 自己ニ不利ナリト覺ラハ之ヲ陳ヘサルノ權アリ詐僞ノ
 氏名等ヲ陳フルノ權アラサレハナリ然レトモ余ハ敢テ

甲説ヲ贊スルモノニ非ス蓋シ之ヲ罰セサルノ理由在ル
 アリ請フ之ヲ辯セン
 曩ニ開説シタル如ク本條ニ於テハ單純ナル僞言ト雖モ
 尙ホ之ヲ罰スルモノナリ而シテ一旦本條ヲ設ケタル以
 上ハ何人ニ限ラズ官署ニ對シテ屬籍身分等ヲ申立ツル
 トキハ必ス其眞正ナルコトヲ證スルノ義務ヲ負フモノ
 ト解セサルヘカラス然ラサレハ屬籍等ヲ詐稱シタルト
 キ之ヲ罰スルノ理アラサレハナリ夫レ然リ故ニ被告人
 裁判所ニ於テ氏名年齢等ヲ詐稱シタルトキ之ヲ罰セン
 ト欲セハ本條ヲ以テ被告人ニ裁判所ニ向テ其氏名年齢
 等ノ眞正ナルコトヲ證明スルノ義務ヲ負ハシメタリト
 セサルヘカラス然ルニ罪ヲ犯シタリトノ嫌疑ヲ受ケ裁

判所ノ取調ヲ受クル被告人ヲシテ其氏名年齢等ノ真正ナルコトヲ證スルノ義務ヲ負ハシムルハ道理ノ許サハル所ニシテ立法官ト雖モ亦此ノ如キ悖理ノ法ヲ設ケサルコトハ治罪法第百八十一條及ヒ第百八十二條ヲ設ケタルノ精神ヨリ忖度スルモ昭然火ヲ睹ルヨリモ明カナリ故ニ被告人ハ裁判所ニ向テ其氏名年齢等ノ真正ナルコトヲ證スルノ義務ヲキモノニシテ既ニ其義務ヲシトセハ被告人氏名等ヲ詐稱スルモ本條ノ制裁ヲ受クルノ限リニ在ラサルナリ是レ數理ノ自ラ然ラシムル所ニシテ亦争フヘカラス此理由アルヲ以テ裁判所ニ對シ氏名年齢等ヲ詐稱シタル被告人ハ之ヲ罰スヘカラサルナリ

第二百三十二條

官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ官職位階ヲ詐稱シ官ノ服飾徽章又ハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ノ罪ヲ定ム

本條ノ罪ハ公權ニ對スルモノニシテ其信用ヲ損スルモノナリ故ニ前條トハ自ラ其性質ヲ異ニス

官職ヲ詐稱スルトハ無官ヲ詐ツテ有官ト稱シ下等官ヲ詐ツテ上等官ト稱スルノ類チイヒ位階ヲ詐稱スルトハ無位ヲ詐ツテ有位ト稱シ下位ヲ詐ツテ上位ト稱スルノ類チイフ又官ノ服飾トハ大禮服又ハ陸海軍若クハ警視官正服ノ類チイヒ徽章トハ菊ノ御紋官吏提燈ノ提章ノ

類キイヒ内外國ノ勳章トハ日本又ハ外國ノ政府ヨリ特ニ其人ノ功勞ニ報スル爲メ授與シタル所ノ綬章キイフ此等着用佩用ノ正權ナクシテ之ヲ用フル之ヲ僭用トイフ是等ハ皆ナ公權ヲ蔑如シ一般ノ信用ヲ害スルモノナレハ本條之ヲ十五日以上二月以下ノ輕禁錮及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ本條ノ罪ヲ輕禁錮ニ處スルモノハ是レ多クハ傲慢虛飾漂情ニ誘ハルモノナレハ深ク其心術ヲ懲戒スルヲ要セサレハナリ

本條ノ罪ハ前條ト異ナリテ官署ニ對シテ之ヲ爲スヲ必要トセス何人ニ對スルモ必ス之ヲ罰スルモノナリ然レトモ官ノ服飾等ヲ僭用スルノ罪ニハ一ノ條件ヲ必要ト

ス其公然タルヲ要スルコト是レナリ此條件タル法ニ明記ナシト雖モ世人ノ認メテ敢テ一言ノ非難ヲ容ル、ナキモノナリ何トナレハ公然之ヲ用ヒスシテ唯自宅又ハ人ノ宅ニ於テ着用佩用スル者ノ如キハ多クハ戲謔ニ屬シ然ラサルモ毫モ世ニ害ナキヲ以テ之ヲ罰スヘカサレヤ明カナレハナリ然レトモ余ハ草案ノ如ク明カニ公然ノ一語ヲ記入セラレシコトヲ希望ス

或問テ曰ク公權ヲ剝奪セラレ又ハ之ヲ停止セラレタル者勳章ヲ佩用シタルトキハ本條ニ依テ之ヲ罰スヘキ乎將タ第百五十四條ニ依テ之ヲ罰スヘキ乎ト曰ク第百五十四條ニ依テ之ヲ罰スヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ公權剝奪又ハ公權停止ヲ破リタルモノニシテ尋常勳章

ヲ僱用シタル者ヲ以テ論スヘカラサレハナリ

○佛刑法第二百五十八條 何人ニ限ラズ其官ニ居ラズ

シテ文武ノ公務ニ干渉シ又ハ其公務ノ處分ヲ爲シ

タル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ

但其所爲詐偽ノ性質ヲ有スルトキ詐欺ノ刑ヲ適用

スルノ妨ケト爲ルコトナカルヘシ刑九、四〇以下

同第二百五十九條千八百五十八年五月四日改正 凡ソ自己ニ屬

セサル「コスチム」有位有官ヲ表「ユニフォルム」官吏軍人

服ノ類ヲイフ大禮又ハ勳章ヲ公然着用シタル者ハ六

月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラレヘシ

何人ニ限ラズ權利ナクシテ名望ヲ博センカ爲メ公

然官職ヲ詐稱シ又ハ身上證書ニ記シタル氏名ヲ變

更シタル者ハ五百「フランク」以上一萬「フランク」以下

ノ罰金ニ處セラレヘシ

裁判所ニ於テハ不正ニ官職ヲ稱シ又ハ氏名ヲ變更

シタル公正證書又ハ身上證書ノ欄外ニ裁判言渡ヲ

附記スヘキコトヲ命スヘシ

凡ソ本條ニ定メタル場合ニ於テ裁判所ハ其言渡書

ノ全文又ハ抜書ヲ其指示スル新聞紙ニ登記スルコ

トヲ命スルヲ得ヘシ刑九、四〇以下

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

○本節凡テ四條公選ノ投票ヲ偽造スル罪ヲ定ム

公選ノ投票トハ府縣會議員聯合會町村區會議員戶長選

公選ノ投票ヲ偽造スル罪

舉等ノ投票ナイヒ私選ノ投票ハ包含セズ是等ノ投票ハ最モ眞實ヲ貴ミ且最モ信用ヲ重スルカ故ニ之ヲ偽造シテ以テ公益ヲ害スル者ハ必スシモ之ヲ罰セサルカラス是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第二百三十三條

考案

公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ノ罪ヲ定ム
公選ノ投票ヲ偽造スルトハ例ハ自己又ハ朋黨親戚ノ當選ヲ謀リ投票ヲ偽造スルヲイフ或曰ク投票ヲ偽造ス

ルトハ果テ如何ナルコトヲ爲スナイフ乎佛文刑法草案ニハ變更トアリ佛朗西刑法第百十一條ニモ亦變更トアリテ何レモ偽造ノ語ヲ用ヒス實ニ投票ハ之ヲ變造スルコトアルヘキモ之ヲ偽造スルコトアルヘカラス例ハ投票ニ記載シタル所ノ氏名ヲ變シ若クハ之ヲ塗抹シ又ハ其意ヲ曖昧ニシ以テ之ヲ無効マラシムルカ如キ皆ナ是レ變造ニシテ偽造ニ非ス之ニ由テ考フレハ本條ノ所謂偽造ハ蓋シ變造ノ誤ナルヘシ若シ然ラスンハ實際最モ多キ變造者ノ却テ其罪ヲ免カル、ニ至ラント曰ク實ニ投票ノ變造ハ世間往々聞ク所ナリ然レトモ亦未ダ之ヲ偽造スコトナシトイフヘカラス例ハ人ヨリ投票ヲ記載スルコトヲ委託セラレタル者本人ノ意ニ反シ他ノ

氏名ヲ記載シタルカ如キ變造ニ非スシテ偽造ナリ此ノ如キノ類實際蓋シ鮮カラサルヘシ故ニ本條ニ偽造ノ語ヲ記入シタルコト強キ之ヲ不當トスルヲ得サルナリ然レトモ單ニ偽造トノミアリテ變造ノ語ナキハ果テ其宜ヲ得タルヤ否甲曰ク偽造ノ語中ニハ自ラ變造ノコトヲ包含ス故ニ特ニ變造ノ語ヲ記載セサルモ實際敢テ支障ナシト乙曰ク變造ハ皆ナ増減ナリ故ニ増減ノ語アル以上ハ變造ノ語ナシト雖モ其弊ナシト余謂ヘラク甲說ハ全ク取ルニ足ラス法律ニ偽造ト變造トヲ別視シタレハコソ偽造罪ノ各條ニ特ニ變造ノ語ヲ用ヒタルナリ他ノ數條ニ在テハ之ヲ別視シ本條ニ在テハ偽造ノ中ニ包ミ之ヲ同視セントスルハ恫モ亦甚シトイフヘシ又増減ス

ルトハ竊ニ投票ヲ取除ケテ其數ヲ減シ竊ニ加ヘテ其數ヲ増スノ類ナイヒ彼ノ氏名ヲ變換シ又ハ之ヲ塗抹スルノ類ナイフモノニ非ス故ニ乙說モ亦其當ヲ失スルモノナリ敢テ此ノ如キ牽強附會ノ說ヲ逞スルヲ欲セス明カニ本條ニ變造ノ一語ヲ增加セラレシコトヲ希望ス然ルトキハ前後相顧ミテ法文秩然タルモノアラシテ而シテ増減ノ語其意少ク漠然タルヲ以テ或ハ變造ヲ取テ此中ニ包含セシムルヲ得ヘシト雖モ是レ亦法ノ正解トイフヲ得サルナリ

或問テ曰ク選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク佛朗西大審院ニ於テハ此ノ如キ所爲ハ法律之ヲ罰セスト定メタリ千八百二十六年附判決又「フォー

スタン、エリー」氏ハ之レト反對ノ説ヲ主唱シ若シ其所爲
 錯誤ニ出テスシテ惡意ニ出テ本人其投票ノ權ナキヲ知
 テ故ラニ之ヲ爲シタルトキハ必ス之ヲ罰スヘシト説ケ
 リ余思フニ選舉ニ付テハ必ス選舉人ノ名簿ヲ製シ其名
 簿ニ登録セサル者ノ投票ハ決テ其數ニ算入スルコトナ
 カルヘシ故ニ選舉權ヲ有セサル者投票ヲ爲スモ其効ナ
 ク一ノ無効犯ナレハ法律之ヲ罰セサル方蓋シ允當ナル
 ヘシ或ハ之ヲ偽造トシテ罰スヘシトイフ者アレトモ此
 所爲タル毫モ其實ヲ變シタルモノニ非サレハ之ヲ偽造
 ト爲スヲ得サルナリ然レトモ若シ投票ノ方法選舉人ノ
 氏名ヲ記載スルニ及ヘサル乎又ハ投票ヲ調査スルニ當
 リ其選舉人ノ氏名ヲ調査セサルモノナルトキハ之ヲ投

票ヲ増シタルモノトシテ罰スヘキナリ

本條以下ニ於テ輕禁錮ノ刑ヲ定メタルハ是レ公選ノ投
 票ニ關スル罪ハ政治上ニ關スルモノニシテ國事犯ノ性
 質ヲ有スルカ故ナリ

○佛刑法第百十一條 第二百三十五條
 全文ヲ掲ク

同第百十二條 凡ソ他ノ者前條ニ記載シタル所爲ヲ
 犯シタルトキハ六月以上二年以下ノ禁錮ニ處セラ
 レ且五年以上十年以下ノ時間投票ヲ爲シ及ヒ選舉
 セラル、ノ權ヲ禁セラルヘシ 刑九、四
 以下、

第二百三十四條

賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ
 爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ自己又ハ他人ノ當選ヲ謀リ賄賂ヲ行フテ投票セシメタル者及ヒ賄賂ヲ受ケテ其人ヲ投票シタル者ノ罪ヲ定ム

投票ハ公益ニ關スル大ナルモノナレハ之ヲ爲ス者ハ公共ノ利害ヲ圖リカメテ私情私利ヲ拋棄セサルヘカラス然ルニ自ラ爲メニスル所アリテ選舉人ニ賄賂ヲ行ヒ其意ヲ枉ケテ投票セシムル者ハ其公益ヲ害スルヤ大ナリ又其賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲ス者ハ其貴重ナル權利ヲ害用スルモノニシテ是レ亦公益ヲ害スル少カラス而シテ之ヲ前條ノ罪ニ比スルニ公選上弊害ヲ醸生スル殊ニ太甚シキモノアリ故ニ此等ノ所爲アル者ハ前條ノ刑ニ殆

ト二等ヲ加ヘタル二月以上二年以下ノ輕禁錮及ヒ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ
本條ニ於テハ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル者ヲ罰スルモ其他ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル者ヲ罰セス恐クハ狹隘ニ失スヘシ例ヘハ暴行脅迫詐欺ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル者ノ如キ之ヲ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメタル者ニ比スルニ其情同ク其害亦大小ノ差アラサルナリ然ルニ一ハ之ヲ罰シ一ハ之ヲ罰セサルハ其當ヲ得タリトイフヘカラス故ニ本條ハ之ヲ改メ暴行脅迫詐欺又ハ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ云々トセラレンコトヲ希望ス

○佛刑法第百十三條 凡ソ選舉ノトキ或ル價ニテ投票

ヲ賣買シタル國民ハ五年以上十年以下ノ時間國民ノ權利及ヒ官職又ハ公務ヲ禁セラルヘシ
投票ヲ賣買シタル者ハ尙ホ各自其受取り又ハ約束シタル價二倍ノ罰金ニ處セラレヘシ [刑]三四

第二百三十五條

投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條ハ投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者投票ヲ偽造シ又ハ増減シタルトキノ罪ヲ定ム
投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者ハ公平無私ノ信任ヲ受ケタル者ナレハ殊ニ慎テ正實ニ檢査計算ヲ爲サハ

ルヘカラス然ルニ其信任ニ背キ其職務ニ悖リ自ラ投票ヲ偽造シ又ハ之ヲ増減スルハ其情最モ惡ムヘク且其犯シ易キヲ以テ公益ヲ害スル殊ニ大ナルモノナリ故ニ特ニ本條ヲ設ケ六月以上三年以下ノ輕禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スヘシト定メタリ
偽造増減ノ解及ヒ變造ノ事ヲ加フヘキコト等ハ第二百三十三條ニ於テ開説シタル所ニ同シ故ニ茲ニ贅セス

○佛刑法第百十一條 凡ソ選舉ノトキ國民ノ投票ヲ計算スルノ任アル國民現ニ其投票ヲ除キ又ハ之ヲ加ヘ若クハ文字ヲ知ラサル投票人ノ投票ニ其指示シタル者ニ非サル他ノ氏名ヲ記載シ其投票ヲ變造シタル者ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラレヘシ [刑]八、三四、三六、四

第二百三十六條

調書ヲ造リ投票ノ結果ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其
他詐偽ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ
處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○本條モ亦前條ト同ク信任ノ職務ニ背キタル者ノ罪ヲ
定ム

調書ヲ造リ投票ノ結果ヲ報告スルトハ投票多數ノ順序
ヲ定メ其當選者ヲ報告スルヲイフ此調書即チ報告書一
且成リテ其報告ヲ爲スヤ投票ハ概テ之ヲ廢滅スルモノ
ナレハ其報告ノ當否ヲ監査スルコト難ク而シテ其報告
ノ實ヲ變スルコト極メテ易シ故ニ報告ヲ爲ス者投票ノ
數ヲ増減シ其他何事ニ限ラス詐偽即チ報告ノ實ヲ變ス

ル所爲ヲ行ヒタルトキハ之ヲ嚴罰セサルヘカラス是レ
本條ノ設ケアル所以ナリ

第五章 健康ヲ害スル罪

○本章凡テ六節第一節ハ阿片烟ニ關スル罪ヲ定メ第二
節ハ飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪ヲ定メ第三節ハ傳染病豫
防規則ニ關スル罪ヲ定メ第四節ハ危害品及ヒ健康ヲ害
スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪ヲ定メ第五節ハ健康
ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪ヲ定メ第六節
ハ私ニ醫業ヲ爲ス罪ヲ定ム
一國人民ノ健康ハ最モ開化進歩ノ度ニ影響ヲ及ホスモ
ノナレハ法律上充分ニ之ヲ保護セサルヘカラス是レ本